

質問5. 所属する学会について〈複数回答可〉（その他）

回答者番号	その他記述
※	日本薬学会、日本結晶学会
※	日本物理学会、日本認知症学会、日本化学会コロイドおよび界面化学部会
※	日本解剖学会
※	日本再生医療学会
※	なし
※	日本宇宙生物科学学会日本微量元素学会
※	日本医真菌学会・日本感染症学会・日本化学療法学会・日本ゲノム編集学会
※	日本がん転移学会日本がん分子標的治療学会Metastasis Research Society
※	日本化学会
※	日本遺伝子細胞治療学会
※	日本化学会、日本ペプチド学会
※	日本バイオインフォマティクス学会
※	日本人類遺伝学会、エピジェネティクス研究会
※	日本ゲノム微生物学会
※	日本RNA学会、日本動物学会
※	日本眼科学会
※	日本薬学会
※	日本菌学会、日本きのこ学会
※	日本薬理学会Neuroscience
※	日本細菌学会
※	RNA学会
※	日本再生医療学会
※	日本がん分子標的治療学会
※	所属学会なし。リタイアしてから癌の基礎を学びたいと思い、癌学会と分子生物学会に参加している。どちらの学会もとてもエキサイティングである。
※	日本ウイルス学会
※	日本植物バイオテクノロジー学会
※	日本臨床衛生検査技師会
※	日本解剖学会、日本骨代謝学会、日本軟骨代謝学会
※	日本動物学会
※	情報処理学会
※	American Society of Cell Biology
※	日本Cell Death学会
※	日本ウイルス学会
※	日本動物学会
※	日本動物学会
※	日本細胞外小胞学会
※	日本動態学会
※	日本顕微鏡学会、日本受精着床学会
※	日本ウイルス学会
※	日本動物学会
※	日本薬理学会、日本生理学会
※	日本毒性学会
※	日本人類遺伝学会
※	なし(企業非会員)
※	日本薬学会
※	日本蛋白質科学会
※	日本臨床ストレス学会
※	日本薬理学会
※	結晶学会、蛋白質科学会、アメリカ結晶学会など
※	日本薬学会
※	日本再生医療学会米国内分泌学会
※	日本薬学会
※	日本動物学会
※	日本内分泌学会、日本産科婦人科学会
※	日本原生生物学会、日本藻類学会
※	日本化学会
※	日本エピジェネティクス研究会
※	日本薬学会、日本RNA学会
※	日本ウイルス学会、日本獣医学会
※	日本ゲノム編集学会
※	実験動物学会
※	日本実験動物学会、日本動物実験代替法学会、日本獣医学会、日本実験動物医学会、米国生理学会、日本病態生理学学会
※	日本生物工学会
※	認知症学会
※	日本生態学会
※	日本骨代謝学会

質問5. 所属する学会について〈複数回答可〉（その他）

回答者番号	その他記述
※	日本循環器学会
※	日本RNA学会
※	日本遺伝子細胞治療学会
※	実験動物学会
※	ゲノム微生物学会, 進化学会
※	日本糖質学会
※	日本内分泌学会、日本抗加齢医学会
※	極限環境生物学会
※	RNA学会蚕糸学会
※	日本ウイルス学会
※	日本ゲノム編集学会
※	日本ゲノム編集学会
※	日本体力医学会
※	日本化学会、電気化学会、日本薬学会
※	日本育種学会、植物バイオテクノロジー学会
※	乳酸菌学会、食品免疫学会
※	日本動物学会
※	日本獣医学会
※	日本臨床免疫学会
※	日本再生医療学会
※	RNA学会
※	日本薬学会
※	日本血管生物医学会
※	質量分析学会 日本プロテオーム学会
※	日本RNA学会
※	日本栄養・食糧学会、日本細菌学会
※	日本RNA学会
※	the protein society
※	転移学会、分子標的治療学会
※	糖尿病学会
※	日本微生物生態学会、日本共生生物学会、日本光合成学会
※	日本人類遺伝学会 日本研究皮膚科学会
※	日本生物工学会
※	日本栄養食糧学会、日本ビタミン学会
※	日本ウイルス学会、日本遺伝子細胞治療学会など
※	日本基礎老化学会
※	日本解剖学会、日本顕微鏡学会、日本内科学会、日本循環器学会
※	日本血液学会、日本実験動物学会
※	蛋白質科学会、エビ研
※	日本ウイルス学会
※	Japanese Society of Bioinformatics (JSBi)
※	日本結合組織学会
※	RNA学会NMR学会
※	日本再生医療学会
※	生物工学会
※	日本水産学会
※	日本水産学会
※	日本薬学会
※	日本ゲノム編集学会
※	日本腎臓学会
※	日本生物工学会、日本微生物生態学会
※	日本解剖学会
※	日本放射線影響学会
※	日本ミトコンドリア学会、日本エピジェネティクス研究会、日本プロテオーム学会、日本食品免疫学会
※	日本進化学会、日本バイオインフォマティクス学会
※	日本物理学会
※	日本RNA学会、日本進化学会
※	JSBSS, JSAC, CSJ, JSCSR, ACS
※	日本内科学会、日本腎臓学会
※	日本骨代謝学会・アメリカ細胞生物学会
※	日本内分泌学会
※	無し
※	日本基礎老化学会
※	日本プロテオーム学会
※	日本薬学会
※	日本薬物動態学会日本薬学会
※	日本脂質生化学会
※	日本病理学会、日本アミロイドーシス学会

質問5. 所属する学会について〈複数回答可〉（その他）

回答者番号	その他記述
※	日本糖質学会
※	日本繁殖生物学会
※	日本動物学会、日本農薬学会
※	日本蛋白質科学会、日本核磁気共鳴学会
※	日本ミトコンドリア学会
※	日本薬学会、日本内分泌学会
※	日本動物学会
※	日本実験動物学会、日本ヘリコバクター学会、日本動物学会、日本プロテインホスファターゼ研究会
※	微生物生態学会
※	日本神経学会
※	日本筋学会
※	日本ウイルス学会
※	日本古生物学会
※	日本体力医学会
※	日本薬学会
※	日本染色体学会
※	所属してません
※	日本人類遺伝学会
※	エピジェネティクス研究会
※	日本薬学会
※	日本薬理学会
※	日本バイオインフォマティクス学会
※	日本脂質生化学会
※	日本生物工学会
※	日本植物学会
※	日本眼科学会、日本緑内障学会
※	米国のいくつかの学会
※	日本ゲノム編集学会
※	日本蛋白質科学会
※	情報処理学会
※	日本体力医学会、日本運動生理学会、日本体育・スポーツ・健康学会、日本宇宙航空環境医学会
※	獣医内科学会
※	日本法医学会
※	日本サイトメトリー学会、日本抗体学会
※	日本生理学会
※	進化学会、植物学会、生態学会
※	日本遺伝子細胞治療学会
※	日本病理学会、日本肺癌学会
※	日本応用動物昆虫学会、日本比較生理生化学会
※	酵母遺伝学フォーラム
※	日本土壌肥料学会、日本土壌微生物学会
※	日本プロテオーム学会
※	日本バイオインフォマティクス学会
※	日本薬学会
※	日本血液学会、国際幹細胞研究会、国際実験血液学会、アメリカ血液学会
※	生物工学会、再生医療学会、免疫学会

質問6-4. オンライン先行開催期間のシンポジウムについて〈複数回答可〉（適切でないと感じる点）

回答者 番号	適切でないと感じる点 記述
※	時間通りに進行していないセッションがあり、本務とのスケジュール調整が難しかった。聞こうと思っていた講演が聴けなかった。
※	オンラインとオンサイトのセッション数のバランスが適切でないと感じた。
※	テーマが偏っている
※	同じ時間に似たようなシンポジウムが組まれており、興味ある公演が聞けなかった。また、会場の行き来に時間がかかるため掛け持ちで聞くのも難しかった。
※	海外からのシンポジストが少ない。オンラインは非常にやりづらい。海外からの人も含めてオンサイトでやるべき。
※	植物関連の内容がもう少し多くてもよいと感じた
※	ゲノム、植物が多いと思った。
※	あまり聞きたいと思えるシンポジウムがなかった。

質問6-6. オンライン先行開催期間のシンポジウムについて〈複数回答可〉（その他）

回答者番号	その他記述
※	翻訳がひどかった。テーマが面白く、興味のある先生方が多かったので、オンサイトでも聞きたかった。
※	オンラインで先に配信するなら、オンサイトの学会をやる意味が半減するのでは。
※	雑多な話が多く、異分野でも聞けるような総論的な内容を含む講演が非常に少なくなったように感じた。これが続くと、トピックが拡散し、広いフィールドをカバーする分子生物学会の意義が薄れていくように思う。
※	オンラインのシンポジウムをオンサイトにすべきだったと感じる。そうでないならば、他のシンポジウムはハイブリッドにすべきだったと感じる。オンサイトは移動が多かったため、セッションごとの移動の際にオンラインで視聴したかった。なぜかオンラインだけオンデマンド配信があるし、謎であった。
※	興味あるシンポジウムはあったが学会前は忙しくて視聴できなかった。オンデマンド視聴ができてよかった。
※	フォーラムの時刻設定が遅すぎる。総会開催時刻と被る設定もあり大きな疑問が残る。午後のスケジュールに空きがあったし、もっと有効利用するべき。
※	概要すら見ていないので評価できない。
※	参加していない
※	存在に気づかなかった参加方法がわかりにくかった
※	ハイブリッド形式の方がよかったと思う。
※	参加しなかった
※	オンサイトと時期がずれていたで、気付くと終わっていた。
※	一般演題から口頭発表へ応募したいが、合致するテーマがなく応募できないことが数年続いている。
※	オンラインシンポジウムで英語で発表を行ったが、なかなかモチベーションが上がらなかった。ただ、一方で和気藹々とできて良い部分もあった。学会というよりはワークショップに近い感覚。
※	朝と夕方に行うのは悪くないと思ったが、なかなか日々の業務があると集中して聞けない感じだった。ただ、おかげでオンサイトの方が少し事案に余裕があり良かったと思う。
※	学会指定シンポジウムが全てオンラインになってしまったのは大変残念だった。スピーカーは各分野で活躍している方が（そういう方は大抵忙しい）、国内外から参加してくれるが、今回はオンラインで発表終了してしまったため、オンサイトに参加しないというケースが多々あったように思う。これは、学会における議論の機会提供という観点からは、大きな損失であった。
※	オンラインでの学会開催の必要性を感じない。オンラインとオンサイトに分かれると内容が分断されるので、オンサイトのみで良い。
※	質問をしづらい雰囲気でした。
※	オンライン開催の場合、各シンポジストの講演開始時間が予定通りになるように管理したほうが、参加しやすいと思います。
※	ハイブリッド+オンデマンドで、全て一緒にやれば良いだけ。何をやりたいのか、わけがわからない。
※	学会の直前は忙しいので、ちょっと聞いている余裕がなかった
※	オンライン学会はなかなか参加する時間がとれず一部のみしか参加できませんでした。
※	視聴していない。オンサイトと別に先行で実施する意義を感じなかった。
※	期間が長く、細切れになるため、結果的に拘束時間が長くなってしまふのが少し気になった。オンデマンド配信に期待。
※	オンラインシンポジウムに参加したかったが、オンサイトでの発表の準備で忙しく参加することができなかった。
※	聞きたい演題が多く、全てまわりきれない。
※	同じ血管系のセッションと被っているため、観客動員数に影響が出たと考える。
※	不要では
※	見ていない
※	先行開催を知らず、見逃してしまった。興味のある先生の発表も多く含まれていたため残念だった。できればオンサイトのシンポジウムとして開催して欲しかった。
※	先行開催の意義がよくわからなかった。事前のアナウンスは十分だったろうか？
※	オンラインセッションでは、英語でチャットに質問を書くのは、時間的にもなかなかハードルが高く、活発な議論が難しいと感じた。
※	オンサイトでの参加が難しい海外の研究者が比較的多く登壇されていた印象を受けた。オンサイトで会場に足を運んで聞く以上、やはりそこで画面に映し出される人を見ているよりも、登壇している人がいて、終わった後に近づいてさらにお話ができるというのが私にとっては望ましい。ハイブリッド形式の学会では、会場に行ってみて発表者のほとんどがオンライン参加で発表が終わったら話せない・会えないということがよくあった。今回の形式は、オンラインとオンサイトがきちんと棲み分けされていたように感じ、そのようなガッカリ感がなく良かった。
※	オンライン先行開催を含めると学会期間が長くなり不便に感じた。シンポジウム終了後も視聴できる点は便利だった。
※	授業等で参加できませんでした。
※	似たようなテーマが同時時間帯に行われていたのが残念でした。これだけ大きい学会なので、多少は仕方がないとは思いますが、オンラインですら、このようなことが起きてしまったことが残念です。
※	オンライン先行開催というものがあることすら知らなかった。
※	日本の学会で日本人が開催するシンポジウムを英語で開催する意味はあるのでしょうか。
※	参加していない
※	基礎的なことから実際のこと(病気とのつながり)実用的なことまで含めて、テーマの広がりがある方が魅力的だと思った。
※	オンライン開催時の音声トラブルが多いのが気になった開催がオンライン開催に慣れていない様子が画面を通じて伝わってくるのが気になった
※	企画段階ではコロナの影響が強かったと思うのでこの設計は仕方ない面があるが、やはり現在となってはオンラインではやや物足り無さがあつた。
※	オンライン先行開催と従来型の年会という、意欲的な試みであった。その反面、複雑で、日程的にも、どちらに参加しようかと迷いながら、遂に、どちらも参加せずに終わってしまった。とても残念である。従来型の日程で、Zoom参加も可能な形での開催を望みたい。
※	各シンポにどのくらいの参加者がいたのか？このカタチが適切かどうかは疑問が残る。

質問6-6. オンライン先行開催期間のシンポジウムについて〈複数回答可〉（その他）

回答者 番号	その他記述
※	オンサイトと独立したオンライン先行開催という意欲的な企画でしたが、「学会参加」に割く時間が増えることになり、スケジュール調整に苦労しました。結果としてあまり落ち着いて聴くことができませんでした。オンデマンド配信もあるとはいえ、ライブ視聴の機会を逃すと何となくそのままズルズルと放置してしまい、ようやく落ち着いた頃には配信終了となり、モヤモヤした感じだけが残ることになります（これは自分の責任ですが）。
※	本当はもっと腰を落ち着けてしっかりと聴きたかったが、忙殺されてあまり参加できなかったのが残念だった。面白い試みと思った。
※	視聴していない。
※	時間帯が悪い。平日の朝から参加するのは難しい。夕方は参加を忘れる。
※	参加していません。特にオンラインは必要はなかったようにも思います。
※	日本国内で研究している外国人研究者や招待した外国人演者が参加できるように、英語のシンポジウムを少なくとも50%以上に増やしてほしいです。
※	オンサイトにフル参加した上で、オンラインセッションに参加する時間を確保することができず、オンラインには参加しなかった。
※	オンデマンド配信があることにこのアンケートで気付きました。僕の情報力不足ですが、気が付いたらオンライン配信は終わっていた印象があります。
※	聴く側としては時間の都合がつけやすいのが良かった。想像ではオンラインであることで海外からの発表者も参加しやすいのではないかと思います。そうであれば海外の話聞く機会も増えると思われるのでその点も良いと思う。一方で本当に必要かと言われるとなんと言って良いか悩ましい。
※	来年くらいからいいので英語のセッションにはAIの自動言語認識による日本語字幕を、日本語のセッションには逆に英語の字幕がつけられないでしょうか。
※	オンラインだと仕事の片手間になってしまい、オンサイトと違って、じっくり向き合うことができない（向き合わなくなってしまう）
※	音声で質問できるシステムもあると嬉しかったです
※	せっかくオンラインで英語でやるならもっと海外のシンポジストを入れてほしい。朝と夕方で、参加できない日が多かった。夕方はもう少し遅いと参加しやすかった。
※	海外在住の発表者から非常にレベルの高い発表を聞くことができた。オンラインならではのメリットだと思う。

質問7-2. 公募シンポジウムについて〈複数回答可〉（適切でないと感じる点）

回答者番号	適切でないと感じる点 記述
※	テーマが違おうように見えて、結局同じような内容のシンポジウムが多い
※	テーマについて、時間帯の割振りに少し不満があった。比較的マイナーな微生物学系のセッションが最終日の午後に偏っており、結果的に興味のあるセッションに参加できなかった。
※	海外招待をもう少し増やしてほしいです。また、口頭発表の発表者が全て事前に定まっているようなシンポジウムは分けて募集してほしいです。
※	シンポジウムによっては演題数が多すぎて、質疑応答の時間が確保できていないものがあった。
※	英語の講演が少ない、シンポジウムのタイトルに奇を衒っているものが多い(本質がわからない)。会場が平らなので前の人の頭でスライドが見えない。椅子をずらすなど工夫してほしい。スライドの作り方にルールを設けるべき(文字は何ポイント以上。スライドの文字が小さくて見えないものが多い。論文の表をそのまま載せると見えないから工夫する、スライドの下1/4は空ける、など)。
※	セッション数を減らしてもっと質を上げる方が良いと思います
※	多くの学会で同じようなメンツで同じような内容のシンポジウムをしている人達がいる。例えばncRNAやグリア細胞の人達など。新学術などのために行っているのだろうが、科学の健全な姿とは言えないように思う。
※	テーマが偏っているように感じました。
※	海外演者がとても少ない
※	参加したいセッションが、同時刻に並行して開催されたために、十分に聴講することができなかった。一方で、ポスターセッションの時間は無駄に長いと感じた。
※	3日目午後では微生物関連のシンポジウムが同時に2つ開催されていました。これは微生物学に興味のある参加者にとっては辛い状況です。
※	似ている分野のシンポジウムに時間帯が被っていることがありました。難しいとは思いますが、同じ時間帯の分野被りを選けていただけるようなプログラムをお願いします。
※	海外からのシンポジストは私がみた範囲では少なかった。シンポジストが少なく、一人当たりの発表時間が長いシンポジウムと、シンポジストが多く、発表時間が短いシンポジウムがあり、シンポジウムを梯子して聞きに行くというのには困難を感じた。
※	似たようなシンポジウムが複数並立しているのが目立った。
※	シンポジウムに直接アプライ出来るようにしてほしい。だいたい、口頭発表演題を、すでに設定されている、十分に一般的とは言い難い範疇のシンポジウムに当てはめるのが難しい。妙に奇をてらったシンポジウムタイトルが多すぎる。もっと一般的なくりで、広く演題を受け付けてほしい。
※	シンポジウムが多すぎると感じました
※	18テーマ/時間帯は、選択幅が大きすぎる。これの1/2~1/3に納めて欲しい。(専門特化か、Generalistかのバランスは難しいが、若い世代に全体的ヴィンションを育成する使命も大会には有るのではないか、ポスターセッションとの時間の配分は、難しくなるが！)
※	午後の部の開始時刻が遅め。
※	テーマが偏っている。
※	海外での国際学会に比べて質疑応答の時間が短く、議論を急かされているような雰囲気の中で質疑しなければならなかった。学会のセッション数は膨大な割に会期は3日間しかないのに、発表時間・質疑応答の時間が共に十分ではなくなんとなく皆が急いでいるような印象だった。
※	もう少し海外演者を呼べるよう、より手厚いサポートがあると嬉しいです(航空券高騰で15万円の補助だと厳しい)
※	人気のセッションは外で画面を通して見ることもあり、オンラインと変わらないと感じました。オンサイト内容をオンラインでも上映いただくか、録画をあとで見れるようにしてほしいです。
※	海外からのシンポジストの数を多くしてください。日本語のシンポは良くない。全て英語にしてください。
※	偏りは感じたが、シンポジウムにあまり期待していないので、別に不満はない。
※	I don't know the official number of symposiums from overseas. I mainly attended English sessions and there were hardly any presentation form overseas.
※	特定の分野(RNA関連など)のシンポジウムが多いと感じた。そのせいかか分からないが、一部のセッションに過度に人が集まりすぎて全く視聴できないということが度々あった。場所の問題もあると思うが、このあたりは、次回以降運営には考慮してもらいたい。
※	・公募演題がすべて通るレベルのセッションを会員は期待していない。数を絞り、十分な広さの会場で、「高い質のセッション」をプログラム委員会がきちんと選抜すべきだと思う。参加者は、雑談を聞きに学会に来るのではない。ひどいレベルの発表が多い。・特定研究班の集まりは表面的、内輪で盛り上がるだけ、やる気のない発表が多く、学会が場所と時間を提供する必要は無い、他所でやるべきだ。

質問7-10. 公募シンポジウムについて〈複数回答可〉（その他）

回答者番号	その他記述
※	見たい演題が被ってしまっていることが多々あった。発表内容の録画を後日配信などは難しいのか。
※	性別の指定があるためか、オーガナイザーが適切な演者を選んでいるのか疑問に感じるシンポジウムがあった。
※	全体的に座席が足りていなかった印象だった。
※	質問時間を伸ばしてほしい。
※	講演内容により多くの聴講者が集まり立っておられる方もおり、運営を依頼している業者におおよその参加人数を把握し、次回の運営の参考にしてはどうだろうか。
※	最終日は、ポスターとシンポジウムの順番を逆にするのはいかがでしょう。ポスターセッション後に帰宅する人が多数いて、学会が終わったような雰囲気が出来上がっていました。最後の会のシンポジウムの参加者が少なかったです。
※	午後のシンポジウムの開始時間がもう少し早いとい印象を受けました。
※	指定演者の30%を女性演者とするを条件とするために、研究レベルが高い男性研究者を指定演者とできない弊害があります。既に女性研究者はポスト・研究費などで男性研究者より優遇される局面が多いですし、男性研究者でも色々な面から研究面で不利を被ってきた人たちもいます。学会発表ではせめてフェアに判断して演者を選択できると良いと思います。
※	指定演者のみならず、オーガナイザーについても50%程度は女性としたほうが良いかと思います。
※	国際化に対する英語の要求について、理解はする。だが発音が不明瞭な口演者、質問時の制約など、この方向性を進めることが適切であるのか、十分に検討されたのだろうか？
※	シンポジストにもポスター発表を課す必要があるのか疑問である。シンポジウムの公募に選ばれた場合は、ポスターの発表を行うかどうか選択制にすべき。
※	一部のシンポジウムでは、発表者が東大と理研からのみだったりと、偏りが強いと感じました。プログラム集について、各シンポジウム内の発表の題名だけでも載せておいてほしいと思いました。
※	会場が満員のため聴講出来ないシンポジウムがあった。
※	オンラインでは参加できなかったのわからない
※	参加者に対して会場の大きさが小さすぎるセッションがあったので、一番小さい会場でももう少し広いと良いなと思った。
※	ライブ配信、オンデマンド配信すべき。
※	科学の良し悪しに性別、人種、年齢で関係ある？
※	ハイブリッドではなく、オンサイトだったので発表する側としては安心して最新のデータを出すことができよかつたと思う。
※	公募が指定かはわからないが、神経科学分野のシンポジウムが同じ時間帯に開催されたため、片方がしか参加できなかった。
※	若手ばかりの発表で重鎮の方々の発表数が少なかつたので増やして欲しいです。
※	性別に関係なく、おもしろい研究をシンポジウムに採択するのが公平である。近年の日本のアカデミアにおける男性差別は目に余る。男女公平の意味が正しく理解されていない。
※	会場が狭くてあふれているところが多かつたのが残念だった。外で聞けたのはいいが、質問にも行きづらいいし、見づらいいし、もう少し広い会場でやってほしかつた。テーマのばらつきは去年より多くて良かつたと思う。
※	会場の割り振りに関してメインセッションの内容的がどれも非常に魅力的だったが、会場のスペースが足りないセッションが多数あつたことが残念だった。
※	複数のシンポジウムが並行しているため、興味のある発表複数会場に点在していると物理的に聞きにくいことは困難であつた。以前のハイブリッド形式であれば、A会場で聴き終わった後にすぐに外に出たところのソファでF会場の発表を聞くというようなこともできたので便利だつたと思う。分子生物学会の裾野の広さを考えれば、テーマ・セッション数自体は今の規模でいいと思うので、聴く側がそれらによりシームレスにアクセスできるハイブリッド形式の仕組みが欲しいと思つた。時間自体被っている場合や、発表が押しているかと思つていた発表に間に合わなかつたといったことも起きるので、オンデマンドで確認もあればありがたい。
※	会場が狭い。立ち見でも足りないシンポジウムがあつた。
※	例えば、「微生物ルネッサンス」と「NEXT微生物学」のように、関連の強い分野のシンポジウムが同じ時間帯に行われている点は非常に不満が残つた。私も含めて参加者の多くは両方のシンポジウムに参加したかつたと言つていた。関連分野のシンポジウムは異なる時間帯で行うように配慮してほしかつた。
※	研究内容によっては研究者の内訳にジェンダーの偏りが生じている場合もあるため、そのような研究分野で30%の女性演者を指定すると本来シンポジストのレベルにない演者が含まれることも想定される。研究業界全体におけるジェンダー分布の問題が解決されない時点で発表者の内訳を指定すると違つた意味での不平等を招く可能性も考えられる。
※	女性を増やしたいのはわかるが、より良い仕事していれば男女関係なく演者にして良いと思う。
※	シンポジウム全体の時間は妥当だと感じたが、演者が多いシンポジウムでは一人あたりの講演時間が短い場合もあり、議論を深められたかは少し疑問が残つた。
※	会場が狭く入り切れないところがある一方、ガラガラのところもある。会場が離れていて複数のシンポジウムに参加するのは難しい。同時時間帯に興味のあるシンポジウムが複数ある一方で興味のないシンポジウムだけの時間帯もあり、参加者全員が満足できるようにするのは難しいと思うが今回はあまり上手なかつたなという印象。
※	Junior女性が多いとの印象が30%quarterの結果であつたと納得。彼女らの成長が大いに期待できる。老重鎮の比率が減つて、全体に若返りのfrontierの息吹を感じ、コロナダメージ後のrefreshが期待された。女性quarter制を大胆に導入しないと、日本の能力向上について、世界の流れに追いついていけない(1976-90年の13年間米国で成長した小生の実感)
※	スピーカーの女性講演者割合を会員比率と同程度にしていることは、大変評価できます。様々なよいセッションがパラレルに走つていたので、同時に聞きたいものがあり、会場間の移動がちょっと大変でした。
※	会場が狭すぎて多くの会場で通路に人が溢れていた。空いている会場はほとんどなかつた。事前の予測に問題があると思う。
※	同時に興味のあるシンポジウムが開催されていても、シンポジウム会場を歩き来するのは難しい。混んでいると入れないこともある。昨年の分生のように、シンポジウムは100%配信してほしい。
※	多数のシンポジウムが並列して進行しており、会場が散在していることもあつて興味あるシンポに参加できないことが多かつた。時間を短くしてもよいので、午後2セッションするなどしてほしい。15分を超える発表は冗長になることがほとんどである。



質問7-10. 公募シンポジウムについて〈複数回答可〉（その他）

回答者 番号	その他記述
※	立ち見が多く入れないケースが散見された。質を問わずとにかく参加者をたくさん集めるという薄利多売的な学会モデルには限界があるように思う。
※	あらゆるシンポジウムの会場で立ち見が多かったのはこれは要改善かと思われる。また、テーマ的に近いものが同日程に設定されていることが多く、見きれないほど忙しい日と時間が余る日の両極端だった。ポスター発表ができる口演発表者については良いと思うが、質疑応答の時間が全体的に短かったのでmeet the speakersのような機会がすべての発表者にあると良いと思う。
※	オンサイトについても配信があるともっと良いと思いました。私自身は現地に参加しに行けましたが、やはり仕事の都合で現地に行けないということで悔しがっている同僚が周りにたくさんいました。また、私自身は女性で今回シンポジウムでの発表の機会をいただくことができ、とてもありがたかったのですが、一方で「女性を30%程度入れるように」というルールがあるというのは、女性である自分としてもあまり良い気分ではありません。性別に関係なく、良い演題を選出するべきだと思います。
※	午前のシンポジウムの開始時間が9:30というのが、日頃の活動時間とマッチしていて大変有り難かったです(9時開始だと少々早くて生活リズムと合わず苦労していました)。11:30頃に終了するのも、午後の予定を組み立てるのに丁度良かったです。選択肢8については、オーガナイザーが進んで考慮すべきことではあると思いますが、条件として付すのはいかなものかと感じました。
※	微生物をメインにしたシンポジウムは2つだけしかなかったにも関わらず、その二つが同じ時間帯に開催されており、聴衆が2つに分断されてしまったことに大きな不満を感じる。シンポジウム応募者が口頭発表とポスター発表の2つを行わなければならないのは負担が大きかった。
※	似たようなテーマのシンポジウムが同時刻に開催されていた印象がある。できれば日時をずらして欲しかった。
※	今後、LBGTQにも配慮した表現に修正する必要があると思うが、ダイバーシティ推進のために、「女性・性的マイノリティが30%を超える」ことをめざすことは必須だと考える。
※	シンポジウムの長さはちょうどよいのですが、途中で短い休憩が入るとありがたいです。2時間を超えて座りっぱなしは、腰が辛い体質なので。
※	人気のテーマでは会場が狭く、発表者が発表するまで立たされていたのは可哀想でした。発表者の席はやはり予め固定しておいた方がいいと思います。
※	会場が狭く立ち見をせざるを得なかったり、サテライトモニターでさえ満足に見られないシンポジウムが多数あった。また、スクリーンの表示位置が非常に低く、会場の前方に座っていても発表資料が見られない場合もあった。不適切な会場であるか、設営に不備があるのかと思えない。オンライン同時視聴可能にすることで解決できる部分があると思う。
※	日本の学会なので、できれば日本語にしてほしい。(英語は十分、人並み以上にできます)
※	オンサイトのシンポジウム開催時間を9:00、18:00のようにしてくれるとありがたい。朝早い時間や夕方以降だと実験が落ち着いていて参加しやすい。
※	座席数が極端に少ない会場があった点だけ、改善してほしい
※	日毎に分野や内容がバラけていて被らないと良いと感じた。分子進化系のシンポジウムが最終日に集中しており、時間が被っていたために参加できないものも多かった。
※	自分もシンポジウムで発表したのですが、発表12分、質疑応答2-3分で、短く感じました。自分以外の発表でも同様の時間設定が多く、個々の発表が短くて説明が十分でなかった場合が見受けられました。シンポジウム全体の長さ(150分)としてはちょうど良かったと思います。
※	シンポジウムのテーマがそれぞれ具体的すぎて、自身が応募したいと思う、もしくは応募して採用されそうなシンポジウムがなかった。その割に同じような題名のシンポジウムが複数あるなあと思ったりした。
※	会場が満席となり臨時で会場を設営したことにより視聴環境が整っていないセッションが一部存在した。また、複数のプロジェクターがある場合、発表者がレーザーポインターを使用すると片方のプロジェクターではどこを指しているのかわからない状況が度々あったのでPC画面上でポインタを動かす方が良いと感じた。
※	シンポジウムの会場によっては参加者の収容人数が足りておらず、聴講できないことが多かった。また、会場間の距離がかなり離れており、他のシンポジウムに移動することがほとんど不可能だった。

質問8. 一般演題(ポスター発表)全般について<複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	奇数番号の発表とサイエンスピッチが同じ時間に設定されていたため、奇数番号の発表時間に人が少なく感じた。
※	サイエンスピッチの試みは良いが、短かすぎて何も話せなかったため、演題数を絞って一人当たりの時間を伸ばした方がよい。
※	ポスター会場が分散されすぎており、1時間で目的の発表を聞くことが不可能だった。会場自体のキャパシティが足りていないし、時間も短く、ポスター発表を尊重していないようにすら感じた。
※	ポスターの数が多く、複数会場制であったことから、時間内に全ての会場を回るのは難しかった。
※	サイエンスピッチがポスターの真横だったので、うるさくてポスター発表がとても聞きづらかったです。ポスター発表とは異なる時間にすることでポスターの邪魔にならない工夫が必要だと思います。サイエンスピッチの企画そのものは良いと思います。全体的に素晴らしくオーガナイズされた年会でした。大きな名札も良かったです。ありがとうございました。オンラインとオンサイト時期が分かれているのも参加しやすかったです。
※	ポスター会場が分散しているのがやや不便だった
※	ポスター会場が分散されており、何番がどこなのかの場所がわかりにくかった。
※	サイエンスピッチが何かを良く理解しておらず参加しなかった。
※	ポスターの発表時間が1時間×2であるため、聞きたいポスターを全て聞くことが難しい。1時間×4にすることで、同一時間内に発表するポスターの数を減らすなど、何らかの工夫が必要だと思う。
※	サイエンスピッチとポスターの時間は重ねないで欲しいと思ったサイエンスピッチで発表している時間に聞きに行きたいポスターの時間が重なり、見る事が出来なかったことや、ポスターを聞いている時にサイエンスピッチの音声で説明の音が聞き取りづらかったため、ずらしてもらいたいと思った
※	サイエンスピッチという若手が口頭で発表する機会が得られることはとても良いと思うが、その分発表者が他のポスターを見られないのは問題だと思う。また、同じ時間帯に類似した発表が存在し、その日のポスターを回れない点が問題だと感じる。
※	高校生の発表とみたいポスターが被ってしまい、どちらかを諦めなければいけなかった。
※	サイエンスピッチの評価基準の一つである、「規定の時間内で発表できたか」の発表時間の計測方法がブースの担当者ごとに異なっていた。発表者がしゃべり始めた瞬間にストップウォッチのスタートを押していたり、発表者が立ち位置に立った瞬間にスタートを押したり、バラバラだった。私のブースは後者であり、係の方から使用可との説明があった発表者ツールのタイマーと、進行の係の人のベルの時間とのラグが5-6秒生じていた。結果、発表者ツールでは、時間内に収まっていたが、係の人のタイマーでは、2-3秒overした。どこまで厳密な基準なのか、わからないが、ブースごとに計測方法が違うのは、大変遺憾に思う。
※	ポスター会場は1か所にまとまっていた方が見やすいと感じた。
※	サイエンスピッチの音声が大きくて、ポスター発表の演者の声が聞こえない。サイエンスピッチは別の会場でやるべき。関係ない話を大きい声でしている人、奇数偶数の割り当て時間以外で発表を続けている人などは、スタッフが別の場所に誘導すべき。
※	ポスターの演題数とコアタイムの発表時間が見合っていない。発表時間が短すぎて、話したい演者と話せなかった
※	サイエンスピッチの時間がポスター前半の時間に被っていたことは大変残念に感じた。興味のある発表の一部を見に行くことができなかった。
※	ポスターの展示場所がばらばらで見るのが大変だった。
※	ポスター発表会場が分散されており、不便であった。
※	サイエンスピッチと実際のポスター会場がとても離れていたりしてわかりにくくて不便だった。また、初めての参加だったので、こういうものかもしれませんが、周りの雑音が大きく、ポスター会場の雑音とサイエンスピッチの発表が重なっている点が集中力が途切れそうになり少し残念だった。
※	ポスターの並び順に不満がある。植物と疾患研究が隣り合っているのは、研究分野の観点からみても不自然に感じた。どうしようもなく寄せ集められた印象を受けた。
※	老人にもサイエンスピッチの機会下さい。うちは院生いないポッチなので若手に限定されちゃうと参加できません。
※	ポスター会場が分かれて過ぎていて、他の人の発表を聞くのが不可能だった
※	サイエンスピッチの優秀者発表は、できれば当日、遅くとも週明けすぐにはすべきである。現状、学会終了後4日経っても発表されていない。こうなった理由はしっかりと検討してほしい。
※	サイエンスピッチは良かったが、これに参加していると肝心のポスターを見る時間がなかった。時間配分を考えなおすか、サイエンスピッチをオンラインで事前開催にするのもよい。
※	ポスター発表者の発表時間帯とサイエンスピッチの時間を重ねないようにした方がよいと思う。
※	サイエンスピッチの取り組みは良いが、ポスター前半の時間をフルに使うという割り振りは不適切と思う。
※	サイエンスピッチは良かったが、ポスターの時間と重なるので、ポスターを見る時間が減るのが残念だった。ポスターの前に実施した方がよいのでは。
※	ポスター会場が分散しているため見に行くのが大変で、見たいものが全て見れなかったのが残念。ポスターを貼る会場がとても分かりにくかった。
※	3つの会場が離れていて、アクセスしにくい場所などにありやや不便だった。
※	サイエンスピッチ自体は良かったと思いますが、近くのポスターを見ているときにうるさく感じました。場所をもう少し話したほうが良いと思います。仕方ないと思うのですが、ポスター会場が沢山あり過ぎて、建物を移動しないと行けないのが面倒でした。
※	ピッチトーク自体の試みは良いが、場所が狭い中でやるので、ポスター発表に影響が出ているようであった。
※	ポスター会場の距離が離れているのが不便だった。
※	ポスターセッションのオーガナイズには、かなり不自由である不満があった。第一に、サイエンスピッチと発表会場が分かれていることがあり混乱した。ポスター会場での番号表記が各会場前にしかなく、本部前などに無いため、どこに何番のポスターがあるのか探すのに苦労した。ポスター会場では、サイエンスピッチの会場を真ん中に置いており、ポスター番号が分断されているため、演題を探すのに苦労した。とにかく、今回のポスターセッションのオーガナイズは、例年にくらべ多くの不満があり改善を求めたい。
※	ポスター会場は一箇所に集めた方がよい

質問8. 一般演題(ポスター発表)全般について<複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	サイエンスピッチは、短時間ながらも発表の機会ということで、良い試みだと思いました。ポスターは、今回会場が4つに分散していたことから、見て回ることが困難でした。ポスターを分野別に並べてもらおうと、移動が少なく効率的に見て回れると思います。今回はそのような配置ではありませんでした。
※	サイエンスピッチのサポート審査員として、審査を行いました。発表と発表の間が短かったこと、また、同じ演題の審査を行なった他の審査員と相談する時間も無く審査が難しかったです。サイエンスピッチを行うことには賛成ですが、審査する側に対する対応がもう少しあっても良かったのではないかと考えています。
※	・ポスター会場を1ヶ所にまとめて欲しい。歩くのが大変です。・サイエンスピッチはポスター時間外の別の時間を確保してほしい。
※	サイエンスピッチではなくポスター賞を復活させてほしい。サイエンスピッチには賞が設けられていると聞いたが、結果発表がわからなかった。
※	サイエンスピッチの場とポスターが近すぎて、ポスターが聞きづらい場所があった。サイエンスピッチの場所をもっと離れた方が良いのではないかと考えた。
※	会場が複数あり、分かりにくい
※	ポスターは、ある程度分野・トピックスごとに場所を分けた方が良いと思う。
※	ポスターの並べ方を工夫していない。似たものが集まるような工夫。
※	サイエンスピッチはよかったがポスターセッションと同時進行するとどっちに行けば良いか分からず困ります。
※	It would be better if the poster are at least in English because there are soo many international students like me who wants to read properly to understand
※	サイエンスピッチよりポスター発表に時間をかけるべきと思う
※	サイエンスピッチの音が大きく、ポスターの発表が聞こえづらいことが多々あった。
※	高校生の発表のエリアが、参加者のわりに狭かった印象があります。分子生物学会の主たる発表ではないのですが、可能であれば、一般ポスター発表と少しスペースを空けていただくと、混雑緩和になるかもしれません。ここで発表した高校生が将来、一般の部で発表するようになってくれると、世代交代もシームレスに進み、分子生物学会の発展につながると思いい期待しております。
※	サイエンスピッチに参加していると、奇数番号のポスターを聞くことができませんでした。サイエンスピッチがあったから、ポスターの時間がはじまるなどの工夫があるとより良いと感じました。
※	ポスター発表とサイエンスピッチは別時間に独立させた方が良いのではないかと？
※	サイエンスピッチの資料を映す画面が少し小さく感じた。後ろで立ち見をしている人も多くいたので、後ろの方からでも見えるくらいの大きさがあってほしいと思う。
※	サイエンスピッチの参加規程が学生及びポスドクとなっていたが、私のような実質ポスドクに近い任期付き助教にも参加の資格を与えてほしい。
※	明らかに人の流れが少ないポスターの場所があったので、神戸開催に不満はないが、改善が必要だと思う。
※	(本学会年会に限りませんが)、ポスター発表は時間が限られているので、あまり一人の人がいつまでも発表者と話をしすぎることをないように、訪問者・発表者が多少気づかいをされた方がよいと思うことがあります。若い方や学生(留学生)からは、なかなか「割って入る」ことがしにくいとも思います。どこかに1行書いて頂いてもいいのかなと以前から思っています。
※	企業ブースの2次元バーコードの企画はよい発想だと思うが、ポスターの時間と被るのは非常に良くないと感じた。
※	15:45でポスターを剥がされるので見落としたものもあった。もう少し長く貼って欲しい。
※	対面でのディスカッションを優先し、サイエンスピッチは聴講しなかった(サイエンスピッチはオンライン・オンデマンド形式が良いのではないかと)
※	サイエンスピッチで発表をしました。提出ファイルがパワポだったのですが、本番でモニターに映った時に図形の配置ズレが発生し、自分が思った通りのパワポイントで発表できませんでした。他の発表者についても同じような例が散見されましたので、次からは提出をPDFにすればいいのではないかと思います。
※	ポスター数が多く、会場が分かれているし、時間も限られる中、満足いくものではなかった。オンラインの時間を別途設けて、質問を集めてはどうか。その方が、双方の利益になります。もちろん、ポスターの検索能力の向上を望みます。
※	ポスター発表で後半(偶数番号)に割り当てられていた知らない人が、知人を連れてきて大きな声で前半の途中から発表し始めた。時間ぐらい守ってもらいたい。
※	ポスター会場の分割が多く、移動に苦労した。特に、どの#がどの会場なのか、区分が小冊子、Web、会場(他会場の記載)に書かれていないので、ブースで書いてもらった。
※	ポスター会場が3箇所にも別れていたため、移動が必要であり、かなり不便であった
※	異なる会場で行われていたため、少し不便を感じた。
※	ポスター賞を設けてほしい
※	休憩時間が長いわりにサイエンスピッチとポスター発表の時間が被っていたので、時間をずらしても良いのではないかと。
※	ポスター会場が複数に分かれていたが、どの会場に何番から何番があるのかオンラインプログラム上でわかるようになっていたか。自分はよくわからないまま初日しばらくポスター会場を彷徨う羽目になった。サイエンスピッチはポスター発表への誘導のような役割も果たしていると思うので、その意味でも先行オンラインなどでやっていたら、オンサイト会期前の選定段階で役に立つのではないかと。
※	会場が分離していて不便。
※	ポスター会場が3分割され、すべてを見るのが難しい。
※	致し方ないことかと思われそうですが、ポスター会場が3つに分かれたいたため、興味のあるポスター発表に十分参加できなかったのが悔やまれました。
※	サイエンスピッチとポスター発表の時間が重なっている点は良くなかった。サイエンスピッチの音が大きすぎて、ポスター発表者の声が聞き取れなかった。サイエンスピッチとポスター発表の時間は分けるべきだと感じた。
※	若い研究者に活気があって良かったと思います。
※	ポスター会場が分散していて、行き来することが難しかった。企業ブースへの集客を考えて分散させたのだと思うが、サイエンスを重視するのであれば、ポスター会場は集中させて良いのではないかと？
※	ポスター会場が3つに分かれていたのは、不便であった。

質問8. 一般演題(ポスター発表)全般について<複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	演題数が多いため、事前にグラフィックアブストラクトやプログラム等が配布されたことで、それを参考に聴講したい演題を絞れたのはよかった。ポスター発表時間はもう少し長くてもよいかとも感じた。演題数と会場の広さの関係で難しいかもしれないが、より多くの参加者と意見交換できるよう、一人当たりのポスター発表日を2日以上に設定してほしい(参考:微生物生態学会では2日間の発表で、発表時間を各日ずらしてより多くの発表を聴講できるようになっていた)。
※	教育研究運営現場をretireしないと(retire頃燃え尽きてしまう方々、直ぐ死んでしまう方々も結構いるが)、時間的にgeneralな視点でサイエンスを楽しむことができる立場にならない。のびそうな若者のポスター前で議論する時間は楽しい。普段の勉強の成果を、次世代に還元できる場があると、益々勉強が楽しくなる。
※	会場が離れすぎだと感じた。ポスター会場は1か所にまとめたほうが葉の先生方と議論しやすいと思った。
※	神戸は会場がばらけすぎ。
※	仕方ないかもしれないが、ポスター会場が3つに分かれていて行き来が大変で、見れないポスターが沢山あった。一方で、各ポスター会場の入り口に企業ブースを持って来たのは良い案だと思った。人の流れができて賑やかで楽しかった。
※	出張報告のこともあるので、受賞の発表を大会終了直後にしてほしい。
※	サイエンスピッチの際に、発表者の声量に合わせてマイクの音量を変えるなど、細かい配慮が感じられた。
※	サイエンスピッチは、若手にとってとてもいい企画だと思います。次年度も継続していただきたいと思います。
※	サイエンスピッチを録画して、学会「期間後に」オンデマンド配信する。もしくは、逆に、各自で短尺の動画にして「期間前に」オンデマンドで視聴できるようにする。
※	会場が4つに分かれていて、目的の番号の発表にたどり着くのに(どの会場が何番から何番までの発表なのか、続きの番号がどの会場になるのか確認するのに手間取り)やや時間がかかった。
※	サイエンスピッチとポスターセッションの前半の枠が被っており、サイエンスピッチを聞いていると、ただでさえ短いポスター発表を聞ける時間がさらに短くなってしまふのがよくないと思った。
※	サイエンスピッチの結果発表についてのアナウンスが不足していると感じた。前回みたいに当日発表もあるのか、後日のみなら大体いつ頃になりそうなのかわからなかった。
※	演題検索でポスター番号が分かってもどの会場なのかわからない上、会場にあるボードに会場と番号の対応がないので、すべての会場を探す必要があり苦労した
※	サイエンスピッチの優秀賞の結果は既に公開されていますか?
※	大体どの分野のポスターがどの辺に展示されるのかわかりやすいと嬉しいと感じました(それぞれ分野ごとに固まっているのは非常に嬉しいのですが、免疫系は会場が2つに分かれていてわかりにくかったり、ポスターのアブストを全て確認するのは大変なので実際全ての会場に足を運ばないとどこでどのような分野のポスターがあるのか大まかな傾向が掴みにくかった。知り合いときている人は情報共有できるので良いのですが、そうでない人は把握が大変そう。
※	ポスター発表時間とサイエンスピッチの時間が重なっていて、聞きそびれたものがあった。異なる時間にしてもらったら良かった。
※	同じ研究室の研究者のポスター、サイエンスピッチの場所がサイトでは誤って表記されており、当日事務に修正頂きましたが本人は大変混乱しているようでした。
※	いつものことながら、神戸大会でのポスター会場は実質4ヶ所に分断されていて、どこに何番のポスターがあるかの把握にいつも手間取る。
※	ポスターセッションのオンライン化には絶対に反対です。オンラインでは議論が深まりませんし途中参加も難しいと感じます。準備にかかる時間と費用に対し、得られる対価が見合っていないと感じます。
※	ポスター会場を分断するのはやめて欲しいです。1つのフロアで完結するようにして欲しい。一つの会場でディスカッションして終わってしまう日ばかりでした。別のポスター会場に留まっている人と遭遇できないなども感じました。
※	連番登録したポスターが、サイエンスピッチの会場で分断されてしまった。サイエンスピッチの会場は1カ所に集めた方がいいのではないかと。またポスターの並べ方が悪く、近い番号なのに遠い場所にあることが多かった。番号で探すのがたいへんだった。
※	サイエンスピッチがうるさくてポスターに集中できない。ポスター会場は混みすぎており、演者と議論するのが難しいケースも多かった。質の低いポスターも非常に多い。全体として、質を高め、演題数・参加者数ともに絞ることを考えてほしい。
※	ポスターの掲示場所、特にどの会場に掲示されているかは、プログラム検索・要旨閲覧システムや小冊子に掲載されておらず、各ポスター会場を訪れて知る以外に手段がなかった。発表者、参加者いずれにも不親切な設定だった。
※	ポスターの会場が複数に分かれており、実際にディスカッションに使える時間が減ってしまうので、正直神戸会場では分生をやってほしくない。
※	興味のある口演が重なってしまって取捨選択せざるを得なくなっても、ポスター発表を聴くチャンスがあるというのは良かったです。反面、興味のある発表はどうしても似たカテゴリに入るためやはり聴きたいものがバッティングして回り切れなかったり、自分の発表時間と重なっているため物理的に聴けない、ということがあるのが残念でした。ただしこれはある程度あきらめるしかないことだとは思っています。
※	サイエンスピッチの時間をポスターと分けて欲しい
※	ポスター数が多く難しいことは理解していますが、1演題に割り当てられたポスター発表の時間が短かったのではないかと思います。オンラインにアップロードする形式を取ることができれば、オンラインでのコメント機能もより活用できたのではないかと思います。
※	サイエンスピッチの審査員だったが、全部聞いてからの順位づけは、難しくよくないと思いました。項目(話し方、研究内容など)ごとに加点もしくは減点で、トータルで順位がでるようにしたほうがよい。
※	サイエンスピッチについて、受賞者が誰なのか分かりにくい。もう決定しているのですか?
※	大まかで良いので、ポスターの分野を掲示してほしい。現地で、どの場所にどんな分野が固められているのかわかりにくかった。
※	3分間のサイエンスピッチを審査するのはかなり難しかったです。審査員はサイエンスピッチとポスターで総合評価する方が良いのではないかと思います。
※	ポスター発表の場所が4カ所に分かっているのは残念だった。全ての会場を回するには時間が足りないが、これ以上時間があっても疲弊してしまいます。出来れば1つもしくは2つの会場で行うのが良いと思います。
※	サイエンスピッチは良い企画だと思うが、ポスター発表の時間とは分離してほしい。
※	ポスターの場所が多すぎて回り切れないので、1~2か所にまとめてほしいです。もしくは、同じ演題数でも質疑できる時間を1日6回くらいに分けて(今回は1日2回の認識)ほしいです。

質問8. 一般演題(ポスター発表)全般について<複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	ポスター会場が点在し過ぎた印象があります。
※	ポスター会場が分かれていて見て回るのが大変だと感じた。
※	ポスターセッションの時間とサイエンスピッチの時間がかぶるのは、発表者、聴衆の双方にとって不利益があると思いました。
※	ポスター発表者の説明時間が1時間というのは短すぎる。
※	サイエンスピッチは面白いアイデア。ただ、ポスター時間と被っているのが何とも。
※	目当てのポスターがどの会場にあるのか会場に行くまでわからなかった。online confでは会場名のところにポスター会場が記載されていない。最後まで別の部位に書いてあることに気が付かなかった。サイエンスピッチは聞けなかったので良いか悪いかの判断はできない一方で、聞く側としては必要性もわからない。サイエンスピッチの近くのポスターではサイエンスピッチがうるさくポスター演者と話さずらかった。
※	もっとファジーなオンライン検索ができると有難い。キーワードの検索は便利であるが、ドンピシャの演題しか出てこない。例えば、分野や領域での検索があると良いと思う。
※	オンラインのポスター発表の場合、ライトニング・トークとかあっても件数からして到底見ていられないので、ポスター画像に付随した1分ほどの説明音声みたいなのがいいと思う
※	サイエンスピッチの受賞者発表は大会終了日、または、次の日には行ってほしいと思った。
※	ポスターの番号と会場がわかりにくいため、1会場の何番等の番号を振ってある方がわかりやすいと思った
※	ポスター発表の際、「サイエンスピッチを見て興味を持って来た」という参加者がいたので、サイエンスピッチに登壇してよかったと思う。ただし、サイエンスピッチが開催されている前半は、サイエンスピッチが盛況な反面、ポスターエリアがやや閑散としていたので、前半の発表者が少し気の毒に思えた。
※	ほとんどのポスターの文字、特にタイトル文字が小さすぎると感じた。会場が広く、対象分野も広いのでタイトルが読めないどのポスターか分からず終わってしまう。会場をブラブラして新しい発見ができるかと思ったが無理だった。タイトルのフォントサイズ下限指定などしてもよいと思う。午後のポスターセッション後も17時くらいまでポスターを貼り続けるべきだと思う。今回はセッションが終わったらすぐ剥がせというアナウンスをしていたが、見たかったポスターを見に行ったら既に剥がされてしまっていたので…。
※	ポスターの数が多く、気になる演題を全て回ろうとすると、ポスター発表者とのディスカッションを十分に行えなかった。オンラインでの質疑やコメントを気軽にできるよう、ポスターにオンライン抄録集とつながるQRコードを貼り付けるなどの工夫があると良いと思います。
※	サイエンスピッチ受賞者の発表方式や発表日を事前に公開してほしい。そして、少なくとも1週間以内には、受賞者を公表してほしい。
※	プログラムに、研究分野の大体の区分けが表示されていると(シグナル伝達、等)、よりわかりやすかったように思います。
※	ポスター会場がバラけていて移動が大変だった
※	サイエンスピッチの時間とポスター発表の時間が重なってしまっていて、もったいないと思った。サイエンスピッチで大まかな内容を聞いた後に、ポスターに行くつもりだったが、それができなかった。
※	ポスター会場が複数に分かれていて、どこにどの番号のポスターがあるのか分かりにくかった。昨年の幕張のように1つの会場でできる方が、サイエンスピッチも盛り上がるし、ポスターも探しやすい。サイエンスピッチと同じ時間のポスターには来客が少なくなる印象だったので、別の時間の方がよいかと思った。もしくは奇数偶数を選択できるようにする。
※	一部のポスター発表の会場も狭く感じた。
※	ポスター発表会場間に距離があり移動がやや困難であった。
※	私のポスターセッションでは、日本からの参加者が私に声をかけてこないことに気づいたが、それは私が留学生であり、彼らと英語で話さなければならぬからかもしれない。留学生が最終日に予定されていれば、もっと多くの研究者と話したり、予定されているセッション中に彼らを招待したりするチャンスがあったでしょうから。
※	ポスター会場が複数に分かれていることで目当てのポスターを探すことが難しく感じた。また、目的のポスターがない状態でうろつくのも難しく感じた。サイエンスピッチとポスターセッションの時間が同時だったため、サイエンスピッチに発表者として参加した時、他のポスターを見るのが全くできないのがよくないと思う。また、サイエンスピッチの会場とポスターの会場が別の場合があり、ポスターの宣伝としてはよくないと思う。
※	2022年の年会(幕張)の時のように、ポスターとサイエンスピッチの時間が被らないスケジュールの方が良いと思う。今年のスケジュールだと、聞きたい発表を聞くには圧倒的に時間が足りない。
※	夕方より早い時間帯で、ポスターだけの時間設定は良かった

質問9. オンサイト会期中の各日のタイムテーブルについて〈複数回答可〉（その他）

回答者番号	その他記述
※	サイエンスピッチの表彰は学会期間内に行って欲しい。発表者として盛り上がりにかけてしまう
※	ポスターの時間枠を2つではなくもう少し増やしたほうが色々なところを回れるのではないかと感じた。
※	chatGPTなどこれから良いツールが沢山出てくるので、英語発表で翻訳機能をつかっても良いと思う。(母国語でないと言語理解度が落ちるのは科学的に明らかだし、英語発表者の時だけ質問が少ないのも毎回気になるので、いっそのこと翻訳するのもありなのでは、という意見です)
※	一日にある発表の数が多すぎて見切れませんでした。できれば3日間ではなく4日間あるともう少し余裕もって見れたかなと思いました。
※	内容的に被るテーマが同時時間帯にシンポジウムが開催されているのが残念だった。
※	朝、通勤ラッシュのことを考えても、朝少しゆっくりの開始というのが良かった。だらだら長いと集中力が切れるので、丁度だったと思う。
※	日本語と英語が混ざっているシンポジウムがあったが、同じセッションでは統一するべきかと思う。日本語話者でない発表者に失礼かと思う。
※	似たシンポジウムを同じ時間帯にしないほしい。
※	オンラインではわからない
※	全てをハイブリッドとオンデマンドで。
※	ポスター発表の時間をもっと長くとして欲しい。
※	比較的似たテーマが同じ時間帯にあり、聞きたいセッションが被ってしまう傾向があったことが残念であった。
※	最終日は16:00くらいに終わって欲しい。帰りの飛行機がない。
※	分子生物学会は自身とは別の分野を知る良い機会ですが、ポスターもシンポジウムも英語が主となるとその学習効率は落ちます。その点で、他の学会と同じではなく、日本語での最新知見の共有を目指して欲しいです。研究者のだれもが英語が得意なわけではないと思います。
※	ポスターを見る時間が短かった。ポスターの撤去が早すぎた。シンポジウム終了時間前に運営がポスターを撤去するのは不適切だと感じた。
※	午前と午後のシンポジウムの間がかなり空く印象で、ポスターの時間が取れるというメリットはあったが、個人的には午後のシンポジウム開始時には少し疲れてしまった。
※	微生物系のシンポジウム(微生物ルネサンス、ネクスト微生物学 etc...)が最終日午後に重なっていたので1つしか参加できず残念だった。日程がずれていればいずれも参加したかった。
※	ポスター発表を、発表者が自分はこの時間帯(複数)にポスターに張り付いていますと自己申告掲せ、ポスター発表時間帯を全日に拡大し、シンポジウム数/時間帯を少なくして、シンポジウムとポスターを同時時間帯開催でダイナミックに行き来出来ること、参加者のトピックカバー率が向上出来るのではないかと。
※	全体的にバランスの取れたスケジュールだったと思います。強いて言えば、お昼を三宮で食べたので、もう少しお昼時間にゆとりがあってもいいかなと思うくらいでした。
※	サイエンスピッチの時間がポスターセッションとかぶっていることが少し残念でした。自分もポスター発表があるので、奇数番のポスターを聴きに行く機会がなくて残念でした。
※	昼の時間にゆとりあってよかった。
※	バランスが難しいとは思いますが、分野が似ているシンポジウムはなるべく別の時間に来るようにされるとさらに聞きやすい(聞きたいシンポジウムが同じ時間に集中しない)です。すでに考慮されているとも思うのですが。
※	家庭の事情で前泊、後泊できないと、1日目の朝早い時間と3日目の夕方のセッションが聴けない。無くすか、そこだけでも配信してほしい。ポスターの日と口頭の日が離れてしまい、3日間出張することになって負担が大きくなってしまった。
※	プレナリ?レクチャーは、あった方がよいと思う。
※	展示見学の時間はできれば無くしてほしい。
※	似たトピックの演題が同じ時間にあるケースがあったので、少し改善の余地あるksも?
※	サイエンスピッチに参加してしまうと、その時間のポスターが見れない
※	外国人の参加者にとっては英語のセッションがまとまった場所であったのは良かったと思います。
※	2日の実施で十分に思います
※	人が多く会場内に入れないものや神戸のように会場が分散していて会場間移動が容易でない場合、以前のようにオンラインで聴けると良い。分子生物学会は自分の専門以外の分野の講演も聞けることに意義を感じており、自分は聞きたい公演が分散しているため会場間移動が必須になるが、移動時間を考えると諦めざるを得ないものが多い。オンライン開催時はこの点が解消できてメリットと感じていた。
※	ポスター張り出しの時間をもっと遅めまで可能にいただけると、遠方からの参加が楽になるためありがたいです。
※	微生物系のシンポジウムが3日目に固まっている気がした。
※	すべてのセッションに参加すると、企業展示を見る時間がなかった。
※	ポスターはゆっくり回りたいので、全ての発表が終わってから夕方にかけての方がいいと思いました。
※	I think all presentations should be in English. To my knowledge this is common practice in all European countries. It is more inclusive and makes the MBSJ meeting more accessible for international visitors.
※	開始時間が9:30だったのがよかった
※	より選抜すべき。指定セッションの中にはあちこちで同じ内容を語る理事もいたのは残念。
※	昼間に空き時間が長くあるのに対して、同一時間にシンポジウム等が重なっており、せっかくの学会なのに複数のシンポジウム・口頭発表を聞くことができないのは不満である。

質問10. フォーラムについて＜複数回答可＞（その他）

回答者番号	その他記述
※	夕食の選択肢が神戸会場では少ないのに、夜遅い時間帯にフォーラムをさせても困る。
※	フォーラムはやや短かった。
※	午後の微妙な時間の空き、どうにかならないか。また参加したいフォーラムが最終日の遅い時間で、日程の都合上参加できなかった。私は微生物学が専門ですが、微生物ルネッサンスとネオ微生物学が同じ時間帯だったので、ばらけてると嬉しい
※	遅い時刻のフォーラムは、子育て中の関係で聞くことができませんでした。遅いものに関しては、オンサイト&オンラインのハイブリッドだと嬉しいなと思いました。
※	フォーラムの時刻設定が遅すぎる。総会開催時刻と被る設定もあり大きな疑問が残る。午後のスケジュールに空きがあったし、もっと有効利用すべき。
※	オーガナイザーとしてシンポジウムに応募したもののフォーラムに回されました。フォーラムには遅い時間にもかかわらず期待以上の参加者を集めることができ、活発なディスカッションもできました。シンポジウムに採択していただけたら、もっと盛り上がったと思っています！
※	18:30開始、20時終了というものには、内容がなんであれ出席することはないと思う。この時間帯にやらされることがあり得る、というのは、何かを企画・提案するうえで恐怖以外の何物でも無い。
※	フォーラムの内容的にこの時間が適当とは思いますが、10人程度の参加者のものだと、なかなかただ勉強しただけの参加側にもプレッシャーがかかる。
※	ユニークな企画が多く、よかった
※	フォーラムの開始時間が遅く、参加できなかった。
※	オンラインではわからない
※	全てをハイブリッドとオンデマンドで。
※	こうしたものもオンライン化して、時間を早めるなど考えてはどうか。子供連れの場合、この時間の出席は可能なのか、疑問です。
※	時間帯が遅く、可能であれば、夕方のシンポジウムの前の時間帯などを検討いただきたい。
※	ボスの設定した飲み会の開始時間が19時だったので参加できなかった。決して興味がないわけだが、そういう都合で会場に残れない人も少なくないと思うので、時間の変更は有効な手段だと思う。
※	参加してません。
※	参加したかったフォーラムがいくつか被っており参加できないものがあり残念だった。長さは良いものの時間帯もなかなか参加しにくい時間にもある。
※	遅い時刻なので参加しなかった。
※	会場の都合で、フォーラム終了後晩飯であったが、会場で小食出来るよう入口でサンドイッチ等が購入できて、食べながら参加できればと思った。
※	キャリアアップのフォーラムは良くなかった。キャリアで、本当にいろいろと苦労した人の話が聞きたい。
※	フォーラムの時間帯が遅すぎて参加しにくい。この時間帯は、懇親会が入ることが多い。
※	晩御飯の時間帯でお腹も空くし、会場も大きすぎるし、特に盛り上がりがなかった。軽食付きで参加者も発言しやすいようなもっとカジュアルな形式でも良いと思う。
※	参加したいものもあったが、体力的に厳しく参加できなかった。オンライン開催時はオンラインで参加できたが、今回はできなかった。時間帯的にこの時間帯になるならオンラインでの配信やSNSとの組み合わせも考慮したらどうかと思う。金銭的な問題はわからないが、技術的には問題ないことがこれまでのオンライン開催で確認できているのではないかな？
※	フォーラムがなんなのかがわからなくて参加しなかった。
※	AIのフォーラムはよかった。基調講演はわかりやすく、さらに座長の進行や要所での発言もフォーラムの趣旨に沿うものであった。AI関連のフォーラムは来年度も開催してはどうか。座長の再登板を期待します。

質問11. 年会の発表言語について(本年会では、指定企画シンポジウム:英語、公募企画シンポジウム:オーガナイザーに一任)＜複数回答可＞(その他)

回答者番号	その他記述
※	毎年思うことだが、海外からの招待演者がいない場合でも英語で発表議論するのは奇妙な光景だと思う。参加者のほとんどは日本人だし、日本語の方がより活発で深い議論になるはずと感じている。
※	特に希望はありません。いろんな形があり得ると思う。
※	今回の方式で良かったと思います。
※	英語は得意な人はいいが、下手な人の発表は内容が良くても聞けたものじゃないので、絶対に日本語を残してほしい。免疫学会は英語のみですが、質疑応答は悲惨です。あんなったら学会に参加する気が起こらない。
※	そのうち発表言語についての議論が必要なくなるような時代が来ると考えられるが、それまでは、企業とも協力して、最新の技術を導入した試験的な講演を、毎年企画して実施すれば、次期大会の開催方法の参考になるのではないかと思います。
※	英語圏の参加者にもっと配慮し、発表も質疑も全部英語で徹底した方が良い。今回はスライドに日本語を書いている発表者も居ましたので、ダジャレなどでも英語圏の参加者が理解できないと不愉快になるだけだと思います。
※	英語の発表には日本語の自動翻訳で字幕を、日本語の発表には英語の字幕をいれるなどは可能と思う。検討をお願いします。分野の異なる講演で専門用語がわからなかったりすると話が見えなくなるので。
※	近い分野のものであれば英語で聞けるが、分子生物学会の醍醐味であるかなり遠い分野の人の発表は、英語ではちょっと聞けない。
※	今年的方式で問題なかったと感じます。
※	スライドは英語でとなっていたが、日本語のスライドで発表している演者も多かった。スライドが英語で、発表が日本語というのは、発表する側としては、少しやりづらく感じる場所があった。
※	参加者の半数が大学生などこれからの若手となるため、各研究領域に精通しているとは言えない。そのため、スライドは英語であっても、日本語を用いたシンポジウム企画が多い方が良い。
※	圧倒的に日本語使用の参加者が多く、発表内容を伝える点、質疑を充実させる点で、日本語使用は避けがたい。無理に英語にしまうと、若い人が質問しにくい、短い制限時間内に聴衆に理解してもらえないと感じる。
※	日本のアカデミアが衰退している1つの原因は英会話教育の失敗にある。「英会話ができなければサイエンスはできない」という現在のやり方には大いに疑問を感じる。英会話教育は学会ではない専門の場で行うべきであり、それを行わず、英会話を理解できないと学会でサイエンスの情報を得られないという体制は教育の怠慢と感じる。日本語はサイエンスが可能な言語である。国内の学会は全て日本語で行えば良い。海外の学会で母国語を廃しているものはないであろう。日本語でサイエンスを広く発信すればアカデミアの若年層への裾野が広がり質も上がる。スポーツ界をみれば裾野を広げる重要性が分かる。まずは日本語でサイエンスの議論を。
※	Q9に書いた通りです。
※	日本語のセッションがあると学生さんなどが親しみやすくなると思いますし、実際そのような意見も聞きました。個人的には学会の国際化のためには全英語にするべきと思いますが、現状は過渡期だと思いますので、まずは若い人が参加しやすい環境というの必要かと思いました。
※	英語にすると質疑応答が極端にへる。これでは本末転倒だと感じる。日本語でもしっかり議論できた方が良いのではないかな。
※	段々参加者の英語の質が向上している(1990年代に比べたら、隔世の感がある)。英語onlyにして、国際的な学会を目指して欲しい。(日本のoriginalityを認めさせる為にも、もっと海外留学を促進させる為にも、やや無理があっても、行かなければならない方向に先導後押しすることは避けられない)。
※	英語でやるセッションなら、質疑応答も英語で。
※	一教員・研究者としては英語化に賛成。留学生も増えている。日本人学生には厳しいので何か対策しても良いかもしれない。ただ一般論として、口頭発表の質疑応答は時間が短い分、後から演者に聞きに行くこともよくあると思うので、完全にシンポ全体を日本語化しなくても、日本語話者の学生には手段が残されていると思う。既にあるかもしれないが、日本語話者の学生が英語を聞いたり、発表する方法について毎年WSがあると良さそう。大学によってはそういう英語の教育がない大学もある。またポスターは日本語が多く、逆に外国人の学生にはかわいそうに思った。
※	All presentations should be in English so as not to exclude any non-Japanese attendees (which is discriminatory).
※	英語での議論は、若手含め全く問題なく、議論のクオリティが言葉の問題で下がるということはなかったと思います。
※	学会が目指すものによるとは思いますが、海外からの演者を取り入れたいのならトークはスライドを含めて全て英語で行うべきだと思います。海外演者の方から「海外から人を招待しているのに演者が日本語で話し始める意図がわからなかった」という意見も聞きました。日本語話者だけに参加を絞るのであれば、日本語で進めて大丈夫だと思います。
※	現状でよいと思います。
※	セッションを英語で行うことについてですが、素晴らしい質疑応答が展開される一方、「複雑なことを議論するので」ということで日本語でやりとりがあったり、学生さんと覚しき演者が返答に困窮したりという場面があり、その意義に疑問を感じることもありました。
※	セッションによって英語指定でも質疑応答は日本語可とオーガナイザーの判断が素晴らしかった。
※	会場の様子を見たところ、海外からの参加者の割合はあまり高くなかったと思います。言語を英語中心にするのはメリットよりもデメリットの方が多いような気がします。
※	全部英語でもいい。
※	英語のセッションを増やして、日本にいる外国人研究者が参加しやすい学会にするべきだと思います。若い研究者にとっても英語で議論できる場を増やして行くべきだと思います。
※	コメントは控えたいと思います。
※	英語使用を推進している学会と比較しても、本大会は日本語使用率が高い印象。その分議論が活発で良いと感じた。英語の場合、やはり議論が深まらない傾向を感じているため。
※	若者や高校生に配慮し、日本語のセッションもあって良いと思う。
※	英語の良さも日本語の良さもあるので何とも言えない。ただ、昔は尖り気味の本学会も、ローカル好きな学生や若手に合わせて、グローバルからローカルへと下方修正になってきたのだと実感した。
※	発表者の英語のレベルが著しく低い場合があった。流石に発表のレベルとして適切ではないと感じたので、それなら日本語でも良いのでは？と思った。



質問11. 年会の発表言語について(本年会では、指定企画シンポジウム:英語、公募企画シンポジウム:オーガナイザーに一任)＜複数回答可＞(その他)

回答者 番号	その他記述
※	The language should be English. To my knowledge many societies in Japan have "English-only" talks. MBSJ seems to be one of the few meetings, which is mainly in Japanese.
※	オーガナイザー側としては海外からの演者に配慮し、質疑も英語を推奨しましたが、日本語での質問もエンカレッジするためにそのように伝えて訳をすることを申し出れば良かったと思いました。
※	座長の采配が一層重要となる。座長には事前にガイダンスとかした方が良いのではないか。誰でも座長がすぐ務まるわけではない。
※	There were only a few English sessions in this conference. I have attended some Japanese sessions because the topics are closely related to my research field but I was not really able to understand all the talks. I have ended up attending only the English sessions throughout the conference.
※	英語で発表する場合、事前に、原稿についてネイティブスピーカーにチェックしていただくようにし修正を入れてから発表する。(聴講していて発表者の英語が正しいのかどうか気になったため)

質問13. 年会の参加登録/演題登録/要旨・プログラム検索/視聴サイトプラットフォーム一体型システム (AGRISMILE社ONLINECONF;オンライン講演セッションはZoomウェビナーで開催)や当日のトラブル対応などのオンラインサポート体制についてお聞きします<複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	要旨詳細画面で、graphical abstractが拡大できないのが不便だった。
※	要旨・プログラム検索/視聴サイトで検索ワードと関係ない検索結果ばかり(関連ワード?)表示されて検索機能に問題があった。もっと検索結果を絞らないと本当に調べたい情報に辿り着けない。
※	検索サイトが特に使いにくかった。検索機能が機能しておらず、例えば苗字名前を入れて検索しても、苗字だけヒットした方がたくさん出てきて、困った。やはり本の抄録が手元に欲しいと感じた。
※	スマートフォンに対応していて、去年よりマシになったが、ユーザーインターフェースには問題があると思う。使いづらい。
※	「メッセージボード」は便利な機能だったが、投稿前に「所属や名前が全員に見られます」という文言の意味がよくわからなかった。まさか参加者全員に内容が見られるわけではないだろうし、「受信者に名前が伝わります」という意味だと思っただが、工夫が必要と思います。
※	オンラインプログラムが画面に上手く収まっていなくて見通しが悪く、検索もわずかな違いでヒットしないなど融通が効かず、加えて、画面をバックするとクリックしたリンクの位置でなく画面の一番上に戻ってしまうなど、使いにくい点が目立った。
※	プログラム検索が適切にできていなかった。演題番号やタイトルで検索すると、多数の無関係な演題が引っかかり、目的のものを探すことが容易ではなかった。これでは、ほとんど検索の意味がないと思う。
※	オンラインシンポジウムについて、オンデマンドでの視聴方法と視聴開始の時期を事前に告知してほしい。
※	視聴サイトプラットフォームについて、サイエンスピッチとポスターが同じように検索で見られる場合もあるので少し分かりづらかった。
※	見たい演題を検索することが難しかった。検索ヒット数が多すぎると感じた(スペースでand機能を使ってもかなりの演題数がヒットした。また、共著者検索がうまく機能していないように感じた。)。ポスター展示の場所もabstract画面を開くと見えなくなり一つ前の画面に戻る必要があったのも不便だった。
※	抄録を演題番号で検索できない点は不便だと感じた。また、抄録のPDFをダイレクトに見れるようにして頂けるとありがたい。
※	プログラム検索システムで、共著に入っている人の発表演題が検索できないのがめんどくさかった。
※	ONLINE CONFでの要旨・プログラム検索がやや不満だった。テキストでの検索で、完全一致でないものが出てくるのがわかりにくかった。また、その演題の発表場所、日時が、タイトルと共に一目で分かるようになっているとわかりやすかったと思う。
※	発表者の検索が使いにくく、不便であった。例えば名前を検索した場合、名前の一部が被っている発表者も全て検索結果に表示されてしまい、とても使えたものではなかった。キーワードで検索した場合もキーワードに含まれる漢字が名前に入っている人が一緒に表示されたりと全くもって検索機能が不便であった。きちんとした所に制作を依頼すべきだと思った。
※	ONLINE CONFのサイトがあるのは便利でしたが、検索機能が上手く働かず、関係のない発表が引っかかってくるのは不便に感じました。また、検索機能として、キーワードで検索できたり、発表要旨ページからそのシンポジウム全体のページに飛べたり、発表者のリンクがあったら便利だったと感じる場面がありました。また、発表にハートやいいねマークを押す機能がありましたが、使い分けが分からなかったのと、ハートマークが、個人的に見たい発表をブックマークできるボタンとして周りの人からは見えないと押しやすく便利だと感じました。最後に、推しガチャというネーミングセンスに違和感を感じました。
※	要旨・プログラム検索がうまく機能していなかった。検索語を入れると関係ないものも含めて数百件のヒットが出ることもあり、特に日本語に対する検索機能がまったく使えなかった。
※	タイムテーブルの検索で、シンポジウムの内容を確認した後にタイムテーブルに戻ると少し操作のできない間があり、その後タイムテーブルの一番上に戻ってしまうので、使いにくさを感じた。
※	1. プログラム検索でデフォルトの日時指定が初日(11/27)になってしまことがあった。全日にしてもらう方が探しやすい。 2. キーワードとして遺伝子名で検索したときに、キーワードを含まない演題が多数抽出されることがあった(例 Rif1, AND-1)
※	ハートマークといいねマーク二つあったのですが、いいねマークしか押せない時があるのを改善してほしいです
※	プログラム検索が有効ではなかった。可能であれば、聞きたい発表をカレンダー形式に表示できるようにしてほしい。そういうアプリを使った学会も多いと思う。
※	参加しなかったので使わなかった
※	検索の仕様が謎でした。ABで検索しても結果が0で、A<space>Bとすると結果が出てきました。
※	専用アプリのほうが使いやすいという印象です。
※	人名検索で拾う名前の範囲の広すぎる。下の名前の一部の読みだけ一致しているだけで検索結果に出てくると結果が多すぎて見る気を失った。結果、検索は自分の名前検索によるテスト使用として3回しかしなかった。ラストオーサーなどの検索結果がきちんと出てくるのか確認するすべもなく、非常に不満の残る検索システムであった。
※	検索システムはせつかくのGraphical abstractが生かせていないと思うことが多々あったので、タイトルと画像だけで簡単に閲覧できる機能があるとよいと思います。
※	口頭発表は問題なかったが、ポスターは数が多くカテゴリー検索がないので、検索が難しかった。
※	演題検索が使いにくかった。
※	今回の要旨・演題検索プラットフォームは使いづらかった。
※	検索機能が貧弱すぎる。不必要な情報まで検索されてくるので使い勝手が悪い。
※	会場で、ネット接続はできませんでした。検索ではなく、ネット接続に依存しない、プログラムの発表の題名を簡単に見られるシステムが必要だと感じました。
※	オンライン要旨は、多くの人がみる会場で、wifiの強度が一定ではなく不便を感じるがあった。アプリケーションとして利用できた3年前の方が良かったと思う。
※	ポスター会場でのインターネット接続が困難な場合があり、演題検索や容姿の確認ができなかったのが、残念でした。
※	発表者名で検索したつもりが、高校生発表が多数引っ掛かってきたのが不便だった。そこは別扱いで良いのではないかと。

質問13. 年会の参加登録/演題登録/要旨・プログラム検索/視聴サイトプラットフォーム一体型システム (AGRISMILE社ONLINECONF;オンライン講演セッションはZoomウェビナーで開催)や当日のトラブル対応などのオンラインサポート体制についてお聞きします<複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	要旨・プログラム検索/視聴サイトの検索機能が余計なものを拾いすぎて、探したい演題をなかなか見つけれなかった。
※	ポスターをmy scheduleに登録する方法がわからなかった。
※	スマートフォンからの検索時に、一旦チェックボックスをOFF/ONを入れ直さないと適切に検索ができないバグがあった。
※	検索システムがよくなく、探している演題になかなかたどりつけなかった。検索後にソートなどができると助かります。
※	以前は携帯のプログラム等の閲覧アプリがあり、便利であったと思っております。PCと連動して共有できることは便利でしたが、使い慣れないところがありました。次回からは、大丈夫です。
※	検索システムが非常に使いにくく、本来であれば興味を持たない演題を見落としているように感じてならない。発表者としても、潜在的に興味をもってもらえる参加者にアプローチできていたか疑問。
※	検索に文字を入力すると、ヒットするものが現れるのですが、Enterキーや「検索」ボタンを押すと消えてしまうバグがあった。演題を見ると、Graphical Abstをクリックしてもリンクが貼られておらず、見ることはできなかった。
※	問題多数。自分の発表の会場がマイページ等から確認できない(演題検索する必要がある)UIが悪く、どの機能がどこにあるか分かりにくい(特にスマホから見たとき)演者の名前前で検索するとき、文字単位で検索されるため、よく使われる漢字を含む名前だと探しにくい各演題の詳細ページでGAが拡大できない
※	オンラインプログラムが素晴らしく使いやすかった。一方で、ポスター会場が3箇所あり、オンラインプログラムには「何番〜何番までどの会場」という表示がなかったため、観たいポスターを探して3会場をうろろろすることになった。
※	要旨検索について検索ワードと全く異なるものを大量に拾う、逆に検索ワードを含む演題を拾えない等、検索機能はまるで役に立たなかった。演題数の多いポスターセッションでは、要旨検索による事前の下調べが必須であり、要旨検索機能の改善は必須だと思う。
※	on line confの検索のヒット率が低いと感じた。検索用語間にスペースを入れて対象を狭めたはずなのに、何でも引っ掛かってしまうことがあった。
※	ログインを何度かする必要があったのが少し手間に感じた。
※	検索能力が悪いのと、iCallにはURLが記入されるが、クリックするとパスワードを求められたり不便だった。検索→カレンダー入力→クリック一つで発表場所も表示できるようにしてほしい。そうだったのかもしれないが、使いこなせなかったです。
※	いいねボタンを押した演題を自分で確認できなかったことがあまり良くなかった。演題検索で関係ない演題がヒットしすぎた印象を受けた。(LARP4を検索したら4が入っている演題がヒットするなど)スマホ版のUIが微妙に見にくい点があった。会場やポスター番号をもう少しわかりやすくしてほしい。要旨pdfが全部同じ名前前で保存されるのがわかりにくい。
※	ポスターがどの会場にあるのかわかりにくい。会場の案内ボードにポスター番号(XXXX番からXXXX番)を記載して欲しい
※	キーワード検索が適切に働いていないように感じた(何故これが?というものも含まれてくるので、選別が大変だった)
※	検索の絞り込みがAND検索ができないため、数が減っていかなくなった。
※	検索サイトはかなり使えませんでした。全く関係ない情報まで引っかかってきました。
※	地図とポスター発表の照らし合わせが難しかったです。
※	昨年もそうだが、要旨のPDFが2ページにまたがってしまい、使い勝手が良くない。工夫すれば全て1ページとなるはずなので、その点は気を使って欲しい。皆だまってクレームが来ないので業者任せになっているのではないかと。もしくは運営に携わる人が要旨のpdfをダウンロードしていないので、その使いづらさがわからないのか?理解できません。
※	要旨・プログラム検索サイトの検索機能が不十分で操作感が良くなかった。
※	プログラム及び参加者の検索システムが少し使いにくかった。
※	ONLINE CONFが使いづらい。検索もまともにできないし、要旨からシンポジウムや発表者へのリンクも存在しないのは本当に不便。推しがチャなんて機能いらぬし、コメントもいいねもほとんど誰も使ってない。以前のアプリは良かったがそれが難しいなら、もっとまともなものを作れるところに依頼してほしい。
※	スマートフォンサイトにおいて、演題画面にその演題を含むシンポジウムへのリンクがあると便利だと感じた。(PCサイトではそのようなリンクがあった)
※	プログラム検索サイトで、検索中:要旨を読んで、「戻る」をすると、タイムテーブルの朝一に戻ってしまう。いちいちさっきまで見ていた時刻帯にスクロールして戻るのが面倒でした。
※	オンライン発表、及びオンサイト発表をネットで発表後review出来るようにできないか?
※	選んだトークがどの部屋のなんというセッションなのかが解りにくい
※	4.に関して、検索漏れが目立った。また画面遷移など変なエフェクトがついている分、動作がもっさりしていて、手間だった。学会は長丁場でスマホの電池を節約したいので、お洒落さよりもサクサクシンプルなサイトにしてほしい。また何でもスマホ対応で電池切れになりやすいので、今回のようなサイトであれば紙版のプログラムも欲しかったです。
※	検索の性能があまりよくなかった。Confitの方が良いのでは?
※	絶対改善していただきたい点として、オンラインで演題検索をして最初に出てきた検索結果の画面に、第一著者以外の名前が入っていない点があります。この見え方では、責任著者(どこのラボか?)がわかりません。
※	ただ、やっぱりタイトル集くらいは欲しいところ。
※	要旨検索のシステムはMBSJ2022の方が使い易いと感じた。また、MBSJ2019のようなアプリが欲しいと感じた。
※	ポスターの演題を検索した際に演題番号でそのまま検索しても検索件数が0になるなど、検索機能に改善の余地があると感じた。
※	オンラインの演題検索をしてもどの会場で行われるのかよくわからなかったため、タイムテーブルでいちいち確認する必要があったのが手間だった
※	オンライン講演セッションに対するサポートが足りていないと先生方から聞いた
※	プログラム検索は、検索結果がたくさん出すぎて(無関係のものが引っかかる)、事実上使えなかった。ポスター会場ではWi-Fiが繋がらず、プログラムを見るのができなかった(空いている会場では繋がった)。
※	要旨・プログラム検索は、演者やキーワードから目的の演題を探し出すことが大変困難であり、まともに機能しなかった。このようなシステムを平然と提供している組織委員会の態度に疑問を感じた。

質問13. 年会の参加登録/演題登録/要旨・プログラム検索/視聴サイトプラットフォーム一体型システム (AGRISMILE社ONLINECONF;オンライン講演セッションはZoomウェビナーで開催)や当日のトラブル対応などのオンラインサポート体制についてお聞きします<複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	分生のオンラインシステムとして一番大事なのは検索機能だと思うが、今回のシステムはこれを満たせているとは到底言えない。全一致やand検索がきちんと機能しないし、キーワード指定での検索もできない。tinderのような謎機能はいらないので次回は検索機能を充実させてほしい。
※	要旨・プログラム検索サイトそのものは使いやすかったですが、やはり紙の詳細版のプログラムが欲しいかなとは思いました。時代に逆行するようですが、やはり紙の詳細版プログラムがあるのとないのでは、演題の探しやすさや振り返りやすさがかなり違うように思います。
※	Graphical Abstractが必要であることを知らなかったので演題登録時に慌てることになりました。あらかじめ告知はあったでしょうか。プログラム検索は目的を達成するのにページを行きつ戻りつしなければならぬことが多く、時間がかかりました。会場が分散しているので、聴きたい演題をマイスケジュールに登録したらタイムテーブルに反映されるような機能があると便利なのだな、と思いました。オンライン講演については、視聴開始ボタンの場所が解らず、いくつか聞き逃してしまいました(演題ごとではなくセッション別の枠にボタンがあることになかなか気付くことができませんでした)。
※	検索できるのはよいが、今日のセッションで誰が話しているのか、スマホでは一目で分かりづらい。分厚くてもよいので、紙ベースでタイトル名前も見れる一覧表がほしい。
※	プログラムの検索についてはもっと良いシステムを導入すべきだと思う
※	二日目の午後、会場でプログラムのサイトに全くつながらなかった。
※	使い勝手があまり良くなかった気がするのは、自分が使いこなせていないからなのか?プログラムから要旨を見てお気に入りしてから次のシンポジウムを見るときなど、毎回一番最初の画面に戻り使いづらかった。ポスターなどは上から順次チェックをしていけ他が、講演の方はそうになっていなかった。タブレットでは気にならなかったが、スマホでは画面が見づらいと感じた。お気に入りした演題の要旨を一括でダウンロードしたり出来るのか?がん学会ではお気に入りした演題のみのマイスケジュールとか要旨一括ダウンロードができるが、分生のでそのような項目やボタンが簡単に見つからない。
※	タイムテーブルが常にその時の時間で表示されるので、先のプログラムを調べている最中にタイムテーブルに戻ると、もう一度その時間まで移動しなくてはならないのが面倒だった。現在の時間に戻るボタンを設置して、現在時間に戻るかどうかを選択できると良いと思った。
※	各演題に対して、自分だけが見れるメモ機能を付けてほしいです。
※	プログラムの検索機能が使いにくかった。参加者検索でひらがな順にソートしたり、検索欄を柔軟にしておしかった。興味のある演題を見つけにくかった。
※	要旨やプログラムをネットでチェックでき、マイスケジュールを管理できたのがよかった。
※	演題登録通知が延期の連続で、年会費の入金が遅れた。運営の都合であるにも関わらず、10月支払いになったので24年度の年会費も払わなければならなくなった。その点はぼったくりだと思う。
※	graphical abstractの差し替えが可能な期間が分かりにくかった。演題のタイトルなどは登録期間のみ変更可能で、graphical abstractは会期まで変更可能というシステム自体は良いと思うが、それをもっと分かりやすく周知すると良いと感じた。
※	要旨・プログラム検索は極めて使いにくかった。検索ワードと検索結果の不一致(探しているものが表示されない、関係ないものが表示される)が多く、ストレスフルだった。ソートや絞り込みなど、検索機能の改善を望む。個別の演題表示画面に会場が示されないなど、欲しい情報を得るために何度も画面を切り替える必要があるなど、使い勝手が悪かった。
※	プログラムのpdf版は、マイスケジュールに入れたものを一括ダウンロードできるとありがたいです。
※	講演の検索がバグっていて、使えなかった。全員高校生の発表が出てくるし。
※	要旨・プログラム検索に関して:使えることは使えるので、使ってはいたが、昔もっとマシだったシステムがあったと思う。今時の割にはイマイチと感じた。ただ、それでも、もちろんあった方がいいのは間違いない。
※	別のところにも同じ内容を記載したが、目当てのポスターがどの会場にあるのか会場に行くまでわからなかった。online confでは会場名のところにポスター会場が記載されていない。最後まで別の部位に書いてあることに気が付かなかった。今回に限って言えば、会場番号を最初に持つてくるのではなく、国際会議場か、展示場か、ホテルかを先に記載し、続けてホテルであれば部屋名、最後に会場番号の方がわかりやすいと思う。どの建物に何番の会場があるは覚えていられない。実際に使う時には、これからどの建物に向かえばいいかを最初に書いてある方が使いやすいと思う。
※	演題の検索機能が全く機能しておらず、不適切な演題を拾ってしまうので困った。ハートマークと手のマークの違いについて説明がなく意味が分からなかった。
※	タイトル、発表者、所属など項目別に検索できるとよかった。
※	タイムテーブルからあるシンポジウムを選んで内容を確認した後に再びタイムテーブルに戻るとページの一番左上に戻ってしまうのが不便だった。
※	抄録の検索で、キーワードと関係ない演題もひっかかってきて不便だった。ポスターの場所と番号の対比がしづらかった。
※	検索機能で、特定の単語を入れると、関係無いものが沢山引っかかることがあり不便だった。
※	スマートフォンアプリがあると便利だと感じた
※	マイスケジュールをgoogleカレンダーなどの他のカレンダーアプリと連携できるようにしてほしい。

質問20. 今後の年会における他学会との連携についてお聞きします（その他）

回答者 番号	その他記述
※	どうでも良い
※	年会費があまりにも高騰しており、参加に躊躇する会員も多いと思います。1万円くらいに抑え、その程度でできることを考えた方が良いのではないのでしょうか。
※	今回は合同開催なしでかなり人数が多く、目当ての発表会場がどこかわからず迷子になった。規模はこの程度を維持してほしい。
※	数年に一回程度会っても良いと思うが、日数が気になるところではある。
※	あまり他学会との合同開催・連携企画の必要性を感じないが、経費削減や収入増加で学会運営にプラスになるのであれば合同大会が増えても良い。
※	単独年会でいいと思います。合同でやるのであれば、学会自体を合同にしたらいいと思います。いくつもの学会に入るのは、経済的にも負担だし、雑用が増えるだけでよろしくないです。
※	コンソーシアム形式の合同大会とはどういう意味ですか？
※	国内学会との合同企画よりも、海外EMBO, ASCBなどの合同企画を増やした方が良い。
※	生物物理学会への参加の際、分生の会員は会員として認められるが、その逆は認められないというのは、少し不思議だなと思った。
※	頻繁に合同大会を開催するなら、一つの学会にしてしまった方が良いと思う。生化学会との合併には問題が多いのでしょうか。
※	規模が大きいのので2年に一度大々的に開催としても良いのではないかな？
※	本年度が初めての参加なので、前年との比較はできないが、とてもたくさんの分野の研究者が集まっていると感じた。
※	今年が初参加なので、判断できない
※	意見を持つほど参加経験がない。
※	基本的には「5.」の意見だが、年会ごとに、年会長の方針／重点が異なることはあると思う。経費や事務局の負担を考えると、他学会との合同大会の年が数年ごとにそれぞれあってもよい。ただし、両大会のトップ同士の間で、あらかじめ個人的な信頼関係が構築されていることが前提です。
※	学会として変革の時期にある。合同開催を議論する以前の質的課題があることへ、運営側は気づくべきだ。

質問21. 前問までの設問・回答に関連するコメントや、その他年会全般についてのご意見があればお書きください。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	Ho
※	会場内のWifiの繋がりが悪いと感じることが何度もあったので改善して欲しい。
※	ありがとうございました。全般にとっても良かったです。プログラムからgraphic abstractが簡単に拡大して見れるWebサイトの設計だとより良いと思いました。今回はいちいちpdfをダウンロードしないと高画質のabstractが見れません。
※	参加章のシールを見ることで、何を専攻している人か一目で分かるのがとてもありがたかった。
※	分子生物学会の年会は時期的にも規模的にも魅力が大きいのですが、参加にかかる参加費用が高すぎると思います。徹底的に簡素化し(例えばモニュメントなどはいらなと思います)、参加費が1万円ないで住むようにするべきだと思います。また、発表する学生に関しても入会金と年会費で事実上7,000円となっているのも問題と思います。
※	建物が沢山分かれていて移動が大変でしたし、発表者としても聞いてくれる方が減った気がして不満でした。ポスター会場を1つにまとめ、企業展示エリアとポスターエリアを分けるのがいいと思います。また、参加証が大きすぎるので、もう少し小さくして両面にするとか、同じ大きさに裏側に地図を載せるとか、工夫の仕方はもっとあったかなと思います。追加で、飲食スペースがほぼないのも気になります。冬の開催なので、皆食べるところがなくて外で座っているというのはいかがかなと思いました。
※	参加証が嵩む上に風に煽られやすく終始鬱陶しかった。また首に付ける紐が長すぎるのか座った時の体勢で折れ曲がることが多く、くの字型になっている参加証を掲げている人を大勢見た。その上、参加証が大きいことによるメリットをなんら感じなかった。
※	ウェブサイトが使いにくく、非常に困ってしまいました。また、一部演題者において、実際の発表場所とサイト上の表示が誤っており、聴衆者が減少する不都合を被っていました。実際の対応は難しいと存じておりますが、事務局のミスで演者に不利益が起こることはないようお願いいたします。
※	高校生発表は良かったが、ポスター発表のスペースが狭くて混みすぎている。もう少しスペースを確保するとよいのでは。
※	高校生のポスターが狭すぎるので、間隔を取るか前後半に分けるかした方がいいと思った。日本酒の規模が昨年より小さかった？楽しみにしていたが既に終わっていた。会場があっちこっちにあって、それぞれでどの発表があるのかとてもわかりにくかった。
※	自分も含めポスドク、スタッフを探している発表者が多かった。さまざまな研究分野の参加者が集まる分子生物学会で、参加している学生とポスドクをさがすラボのマッチングの場を設ける企画があれば、双方にとって良いのではないかと。
※	演題も各分野から様々な発表を聞くことができ、大変素晴らしい学会でした。
※	規模が大きすぎてフォローできない。
※	Online Confのサイトは、PCやタブレットでは見やすかったが、スマートフォンからは少々見にくかった。できる限り揃えてもらえると嬉しいと思う(会場ではスマートフォンで見る機会が多かったため)。会場が分かれすぎていて、移動が大変だった。第45回大会のように、できる限り一つの会場にまとめられる開催形態を今後も模索していただくと参加者側としては大変嬉しいと思う。
※	子連れで参加したので、託児があったのは本当に助かりました。学会会場で結構多くの子供を見たので、子供がいても大丈夫なんだという雰囲気を感じました。ポスター会場にポスターのジャンルの表示があれば、もっとポスターを探しやすかったのではないかと思います。ポスターにジャンルを記載したり、ネームタグで使った研究ジャンルシールを貼っておくといった方法があっても良かったかも思いません。ポスターにディスカッションしたい内容を記載しておいたら面白いかなと思いました(例:wetの解析を一緒にしてくれる人を探しています、XXの実験手法について詳しい方に##を聞きたいです)
※	参加人数と部屋の大きさがあわなかった。スクリーンが見えなかった。室温も厚かったし、など、部屋のアレンジはなんとかならないのだろうか。
※	参加証は、シール貼り付け等、楽しめるものであり、役職もすぐにわかることができました。しかし、大きく、カバーが無いため、折れたり汚したりする可能性があり、お手洗い等では扱いに気を使うことが多かった。紙媒体ですぐに確認できる、簡単な冊子もあるとより良かったです。
※	デジタルスタンプラリーに参加したかったが、会場のインターネットが遅く、大会HPが混雑していたため、かなり時間を浪費した。デジタルでなくても良いのではないだろうか。
※	託児所があるのは本当にありがたかったです。夫婦ともに研究者で、小さな子供が複数いるため、学会参加できるかどうかは託児所の有無にかかっています。今後も託児所の開設を続けてほしいのと、未就学児に限らず小学生くらいまでは受け入れてもらえると、子供が大きくなって学会に参加し続けられます。
※	ポケットプログラムに会場WiFiのパスワードを記載してほしい。
※	・発表分類(キーワード)の項目に偏りがある。・スマホの大会サイトでマイスケジュール等を活用しながら参加するのはありがたいが、会場内のWiFiが繋がりにくかった。
※	学会全体を通して大変勉強になり、また、このように大規模で多分野の発表を聴ける学会はあまりないため、今後も参加したいと思いました。
※	キャリアパス委員会主催ランチタイムセミナーに参加したが、パネリストが皆PIでアカデミアで成功した人のみで、あまり参考にならなかった。PhDの可能性といいながらアカデミアの良さしか語っていなかった。もっと多様なキャリアパスの可能性や実際に他の分野に行った人の話を聞きたかった。
※	参加証が大きすぎて、邪魔でした。自分の参加セッション番号が書いてあるのは良かったです。
※	要旨・プログラム検索のうち、フリーワードによる検索がうまく機能していませんでした。1つの語句に対し、関係ない演題が数百近くヒットすることがあり、自分の興味ある演題を探すことが困難で、聞き逃した演題があったと思うと残念でなりません。特に、日本語の検索結果が悪く、機能の改善をお願い致します。
※	今年は「年会テーマソング」が無かったので淋しかった。(楽しそうに、生き生きとしているお偉い先生方を拝見するのは実に刺激的であり、次世代が研究者を目指すきっかけにもなるのではないかと思います。)今年の年会では、スタンプラリー企画の景品であった林年会長の缶バッジが素敵でした。(費用もそれ程かららないと思うので)毎年、年会長の缶バッジシリーズを作製して欲しいです。何はともあれ、私にとって分生の年会は毎年「参加してよかった！」と思える価値のある大会です。これからも会員であり続けたいと思っています。今年も大会運営の皆様ありがとうございました！！
※	第16会場は毎回立ち見の方が発生していて、会場のサイズが小さいように感じた。

質問21. 前問までの設問・回答に関連するコメントや、その他年会全般についてのご意見があればお書きください。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	冊子のプログラム集の発行は必要ないが、PDFファイルをダウンロードできるようにしてほしい。その際、ポスターなどは日ごとに分割されていると目的のページを見つけやすいので良いと思う。ONLINE CONのサイトは、会場で見るとは重く操作性がいまいちだった。ワークショップの女性研究者の発表を30%というのは、必要性は理解するしそのくらの女性研究者の参加があると良いと思う。しかし、現在のところ、動きやすい若手研究者が複数の学会で発表を求められ断りにくい状況になっていないか心配である。女性研究者の発表を増やすには、発表時間などに配慮が必要だと思う。
※	ハイブリッド開催にすることで年会参加費が上がるのであれば完全オンサイトで良い。要旨閲覧サイトの公開がいつの間にか延期されていたのは良くなかった。昨年の要旨閲覧サイトはポスター発表の動作が重かったが今年はスムーズに閲覧できた。参加証の上半分は不要と感じた。参加証に貼るシールはあまり見えなかった。日本酒飲み比べコーナーは非常に良かった。
※	若い世代がオーガナイザーであるシンポジウムに参加したところ、幅広い分野の講演者や聴衆により大変活発な討議ができて楽しかった(1AS-16, 3AS-16)。今後も若手や女性、地方在勤の中堅研究者(いわゆるメインストリームから少し外れるかもしれないがよい研究をしている方々)を積極的にオーガナイザーに採用することで、発表の場が活性化して、学生や若い研究者がより満足できる学会になると思った。
※	1-2会場のポスターの並びがよくない。真ん中にSPの会場が入っているので連番が飛び地になっていた。SP会場の両側ごとに番号が順番に並んでいる方がよい。
※	分子生物学会は「年会を面白くしよう」「年会を盛り上げよう」という姿勢が強く、それは他の学会と比べて大きな長所である。一方、これを逆手にとって「面白ければ良い」「ざっくばらん過ぎても良い」という人達もいるように感じた。科学としての厳密性や研究結果(の重要性)に対する謙虚さを忘れて傲慢になってはならない。「人生の選択肢を増やすためのPh.D」のランチョンに参加したが、勝ち組教授の「あまり考えてなかったけどなんとかなった」「自分はなりゆきでなんとかなった」という話が多くて閉口した。本当に若手にアドバイスする気で登壇している人も2名いたが、ずっと話している2名が台無しにしたという印象。
※	最終日のポスター撤収期限をもう少し遅くしてほしい。撤収作業を終えてからではシンポジウムに間に合わなかった。
※	分子生物学会は大きな学会であり、現地でいろいろな人、いろいろな研究に出会えることに価値があると思います。オンライン化はその良さを少し減らしてしまうかも。
※	運営お疲れ様でした。様々な取り組みを感じる事ができました。神戸は立地の関係でお昼ご飯に問題があったり、ポスター会場が分散してしまったりと課題はありますが、概ね良い大会だったと思います。
※	やや質問が多くて長い。
※	初日の午前中のセッションから現地参加したが、ポートピアホテルの地下1階、会場5・6・7の前は大変混雑しており、部屋の中も立ち見が沢山出ている。中の様子を部屋の外のモニターで中継するなど工夫すべきであったし、何より、いずれも会場が狭すぎた(参加者が多すぎた)。感染リスクが極めて高まる状況であった。
※	形式にこだわりすぎずに、大会長等の意向で、年会ごとにいろいろな試みがあって良いと思う。それが分子生物学会の特色でしょう。
※	いままでは見たいものが重なって迷うことがあったものの、今回はゆっくりとじっくり考えながら学会に参加発表できた。日本酒の試飲ができなかったことを除けば、大変満足する年会でした！
※	とにかく今回は、ポスター会場のオーガナイズが良くなかったと思う(表示方法やサイエンスピッチとの関係性)。あと、要旨検索も見づらく、全体的に不満の多い学会と感じた。
※	参加証が大きすぎる。
※	スライドが見にくい会場がありました。投影を上の方にするなど工夫して欲しかったです。以前はお気に入りにした要旨の一括ダウンロードが出来て便利でした。学会中、パソコンのキーボード叩く音が凄くうるさい人が居て迷惑でした。マナーの周知をお願いして頂きたいです。参加証が大き過ぎて邪魔でした。シールも意外と見なかったのが今までのような物で十分だと思います。
※	1. お気に入り登録した発表演題をWeb上で表示させることはできるのですが、それを見やすい形式でエクスポートできるとなると良いと思います。2. 今回、シンポジウム名はわかるのですが発表演題名を知りたいときは、自身のスマホのネット接続が不能だったためもあり、ほぼ不可能でした。1日目、2日目、3日目のそれぞれについて発表演題名リストをあらかじめアップロードしておいてほしいと思います。
※	一人が(別テーマであったとしても)複数演題発表するより、若手を含めて幅広い演者の発表を聴けるほうがよいかと思いました。それ以外は、研究の刺激を大いに受けられ、大変充実した学会参加となりました。開催していただきありがとうございます。
※	参加章へのイラストアイコン貼付シールの生物種の選択については参加者人口への配慮があるべき。具体的に挙げると角が立つかもしれないが、某扁形動物よりも優先されるべき生物があったのではないかと。
※	お酒の企画は去年の方がゆっくり楽しめたので去年のスタイルにしてほしい。参加証は大きいですが、裏に地図を作ったり、上下を分けて両面印刷にして文字サイズは変えずに紙のサイズを変えるなど、工夫の余地がまだあると感じる。飲食スペースが少なすぎて、冬なのに外(路上)で食べる人が多いのがよくないと感じた。会場が広いのと建物がかたがたしていると感じた。せめてポスター会場は企業展示ブースに分けるなどしてひとつにすべき。
※	オンラインとオフラインの会期を分けてしまったらそれぞれ別の学会のようで意味がない。オフラインを主にするのはよいのでオンラインでも視聴可能にしてほしい。
※	会場に設置されたWi-fiを含めて、ネットとの繋がりが良くなく、会場でオンラインプログラムなどを見るのが困難であった。プログラムの閲覧をオンライン化するのであれば、環境を改善して欲しい。
※	名札が大きく見やすい。名札を持参していない人が多く、手書きだとせっかくの見やすい表示が生かせないので、会場でプリントアウトできるとよい。部屋の大きさと参加者がマッチしないものが数多くあり、会場からあふれているものがあつた。類似演題の時間の被りが少なく、プログラム構成は優れていた。
※	一般演題から口頭発表を選択する際に、女性の演者が多くなるように選択するのは嬉しいことだが、偏りが大きいように感じた(選択に偏りがあつたように感じた)。
※	全てを「ハイブリッド+オンデマンド配信」に。Q19にオンデマンド配信が言及されていないのは、アンフェアでしょう。

質問21. 前問までの設問・回答に関連するコメントや、その他年会全般についてのご意見があればお書きください。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	お疲れ様でした。全体的にはとてもいい会で、満足できました。三日目の最後のセッションが終わった後に東京に帰るのは少し大変でした。多分休日の前だからだと思います。
※	オーガナイズありがとうございます。参加証はもう少し小さいといいと思いました。検索システムさえよければ、冊子はなくてもいいと思います。グラフィカルアブストラクトはあまり見る機会がありませんでした。
※	科学の良さはフラットさであるので、妙なシールでPIやそれ以外を区別するとか、余計なことはしない方がよい。
※	企業展示ブースが3つに分かれていたので、企業ブースマップみたいなのが手元にあるとより回りやすいなあと感じた。もしかしたら、そのようなマップがあったのかもしれないが、見つけれなかった。
※	参加証が大きくて、メモを取るのに邪魔になりました。名前の印字を大きくし、紙のサイズは小さくできないのでしょうか。
※	デジタルスタンプラリーや利き酒コーナーなど様々な企画があり、イベントとしても面白かったが、抽選のタイミングがわからずスタンプを集めるだけ集めて無に期してしまっただけ(それだけ集めて本来の学术交流をしない人たちが先んじて抽選し去っていった)、その辺りの工夫があると良い。
※	オンサイト・オンライン併用は良いと感じた。もし可能なら、郵送された小冊子にオンサイトだけでなくオンラインの日程も含めてもらえると、小さな冊子だけで聴講したい演題を峻別できると思います。運営委員の皆様、ありがとうございました。
※	スライドの写真撮影は禁止のはずだが、一部撮影をしている参加者が見受けられた。中には、すべての発表者のサマリースライドを毎回撮影するなど、悪質なものも見られた。こうしたことと未発表データを出しにくくなるので、写真撮影禁止の周知や、悪質な参加者は運営が注意する等の対応してほしい。
※	大変充実した年会でした。企画運営に当たられた方々に感謝致します。
※	オンラインでプログラムを確認できることは良かったですが、お気に入りにした演題の筆者をジャンプしてすぐ検索する機能や演題があるセッション名の記載が欲しいと感じました。
※	グラフィカルアブストラクトが細かすぎ、多数の演題から見たい演題を探すという目的に合致しないものが目立った。要旨検索システムのUIを考慮しつつ、学会として適切なインストラクションを用意したほうがいいのではないかと。
※	○ アンケートの選択肢に工夫が必要(不満がある内容に関する選択肢がない。)○ ポケットプログラムにポスターのもう少し詳しい情報が欲しい。例えば、見たい分野のポスターがいつどこであるのかわからなかった。○ 演題検索システムも非常に使いやすかった。興味のある分野にどのような演題があるかを、タイトルと著者の情報を一覧できるようにしてほしい。○ 名札が大きくて邪魔なのに大事な情報がみにくい(名前や所属の位置が下過ぎて見えない)。所属の英語表記がなかった。○ シンポジウムの座長席に、演者、所属、タイトルの情報(特に英語)がなく、困った。
※	参加章に職位を示す必要はない、と思う。
※	ポスター投稿してシンポジウムに採択していただいたが、持ち時間が指定演者の半分だった。シンポジウムを企画する方と知り合っていないと、口演で発表する機会がほぼないことを残念に思う。若い人はサイエンスピッチがあるが、やはり聴衆も少なく、持ち時間も少なく、気の毒である。
※	プログラムアプリがとにかく検索しやすかった
※	演題検索で、発表者以外の共著者の検索ができないのが不便。参加者名簿も共著者が表示されないのが不便。
※	サイエンスピッチの受賞者が、昨年度の際は最終日の午後4時頃には受賞者発表あったが、今年は現時点(12月12日(火)13時40分現在)で受賞者発表がなされていないため、当日審査なのであれば即座に受賞者を発表して欲しいです。
※	日本国内の学会発表は基本的に日本語でよい。わずかな数の海外演者、海外来場者のために、英会話を得意としないがサイエンスを志す日本の若い人を排除している現在の体制は、日本のアカデミアにとって大きな損失となっている。英会話および英語による議論を教育するには、学会以外で専門の教育の場を設けるべきである。
※	アンケートの設問・回答欄の文章が非常にわかりづらい。
※	1. ポスター会場が4カ所に分散していたことは多いに不満であった。どのポスターがどの会場にあるかを確かめる手段がなかったため、とにかく歩いてポスターの場所を確かめるしかなかった。2. 一部の口頭発表会場が国際展示場であったことも不満であった。国際展示場は駅を挟んで反対側であり、容易には往復できない。ハイブリッド開催のときは会場移動の問題がなかったのも快適であったが、今年は非常に残念であった。
※	お昼のキッチンカーが思っていたよりもしょぼかった。神戸開催は昼食難民の救済をもっと考えるべき。
※	気のせいかわからないが、オンサイト学会の賑やかさが感じられなかった。オンラインに参加したので、オンサイトには参加しなくても良いという参加者がかなりいたのではないかと。企業の展示ブースも以前より減ったように思う。
※	「Graphical Abstract」は内容をよく知らない者には分かりやすいが、強制的に作るとなると、発表者側はより負担を感じる気がしました。
※	要旨集の紙媒体の冊子が欲しいです。ポスター発表など、演題名だけでも一覧になっている紙媒体が欲しいです。
※	企業展示の奥のポスターブースに人が集まりにくくなっていった。(特にがん領域のポスター)ポスター発表と企業展示の場所を別々にするべきであると感じた。
※	要旨・プログラムサイトが、使いにくい。Graphical Abstractが見にくい(特に要旨を見ながら見れない)。要旨内でどの会場なのか分からない。
※	シンポジウムの会場の大きさの設定が小さすぎるように感じる
※	今回のオンサイトでの分生学会については、個人的にはあまり見所もなく、今までの学会よりオンサイトで行く意味がなかったように感じた。オンラインとの併用は良いとは思いますが、オンサイトの内容が少し薄い・物足りない感じを受けた。試みを行っている最中で、分子生物学会の規模から考えると併用など領けるところだが、それなりの経験がある人間からすると、今回の形・構成の様な学会であれば、もしかすると今後はオンサイトには参加をしないかもしれない。また、今回のオンサイトの口頭発表では、部屋に入れず外のモニターで聞くようなことも多かった(外のモニターでも多くの人を見て、見られない時もあった)。うまく会場規模を調整する必要があるかとも感じたし、会場に入れないことが多くなるのであれば、オンサイト発表がある演題に関してはon-demand配信なしのリアルタイムhybrid形式を用いても良いのかもしれないと感じた。
※	宣伝の意味も含めて各シンポジウムの説明をサイエンスピッチ形式で先行配信してはどうか。
※	サイエンスピッチの受賞者は学会期間中に発表して、学会を盛り上げてほしい。後日発表では学生の喜びも半減になり、またSNSでの拡散度も低くなり、学会の宣伝効果が薄れると思います。スケジュール的に大変かと思いますが、この点は次年度以降の改善を望みます。



質問21. 前問までの設問・回答に関連するコメントや、その他年会全般についてのご意見があればお書きください。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	大会長です。総括は別の機会に行いますが全体として満足できる形で終わることが出来たと思います。
※	ランチョンに参加できなかった参加者が昼食を食べる場所が無く、また昼食を提供する業者も非常に限られていたので、次年度はもう少し配慮をして欲しい。
※	悪評がたっていたと思いますが、昼食がまともに食べられませんでした。お弁当くらい販売しても良いのではないのでしょうか？運営に携わった人はお弁当がフリーで配られていたので、全く気にならなかったのですが、参加者が、会話しながら自由に昼食とれるような配慮があつてしかるべきかと感じました。ネームカードに、職位のシールは貼るのは悪趣味ではないのでしょうか？演題の前では参加者は全て平等な一科学者でありたいと願っています。教授と学生は同じ目線で職位なんぞは関係なく発表内容を議論するべきと考えます。そうしたセンスを持った研究者にとっては、大変不愉快なシステムです。海外の学会でも名札に職位を書くようなことはしないと思います。はっきり言って悪趣味です。
※	例年より大きなサイズの参加章(紙強化版)&DBCLS統合TVのイラストアイコン貼付シールは、議論のきっかけとなるものが多く、とても良い企画だと感じた。来年以降もぜひ継続してもらいたい。
※	研究不正問題はすでにあきらめたのですか？
※	ソフトドリンク フリーがもっとあっても良いと思った。
※	Poster Clinic by EMBO Pressで発表5分、質疑5分と事前に連絡があつたにも関わらず、ほとんどの人が制限時間を守っておらず、審査員の方々も特に気にせずに進めていたのは問題があつたと思います。制限時間が無いならば無いで良いのですが、それならばそのように書いておくべきだと思います。発表の場がなんとなく弛緩した空気にもなっていましたし、制限時間を考えて説明を絞った人の得るものが相対的に少なくなってしまうと思います。
※	オンライン型にもオンサイト型にもそれぞれに利点があるのは分かりますが、分子生物学会ほどの大きな学会がそのどちらの利点をも追及しなくてもいいのではないかと思います。学会規模が大きいくだけに、オンサイトだけで十分ではないでしょうか。
※	キャリアパス委員会主催ランチタイムセミナーは、現役・OBOG問わず、アカデミックの現状を会場参加型でじっくりばらんに討論でき、バックグラウンドの異なる人たちの生の声を聴くことができ大変実りある企画だったので、ぜひとも次年度以降も開催してほしい。企業展示のデジタルスタンプラリーについては、訪れたい企業がどの会場に出店しているか探るのが大変だったため、どの会場にどの企業が出展しているかといった情報もオンラインで確認できるようにしてほしい。今年度は昨年度よりもスタンプラリーの案内が少なかったため、もう少し情報を掲載してほしい。
※	私は、朝からずっとポスター前で説明・発表しています。持ち時間だけでは短く、混雑もするので、持ち時間以外でも説明&閲覧活動ができる環境(明るく、広い)になっていたのが、大変ありがたかった。
※	特になし。
※	大規模大会の御苦勞、誠に有り難うございます。分子という切れ口で、諸生物学、医学、バイオ産業、健康生活等を横断的に俯瞰出来る事、そのユニークな役割を、今後とも、宜しく願い申し上げます。
※	運営について100%みなさんが満足する正解がないかもしれませんが、個人的にはとてもよい年会だったと思うので、運営の皆さんには大変感謝しております。去年の幕張は企業展示&ポスター会場が寒かったのですが、今年はそんなこともなく過ごせたのが良かったです。他にもとても楽しそうな企画が多数ありましたが、時間の制約で、参加できなかったのが残念でした。Graphical Abstractは、発表検索にはほとんど活用できず、推しガチャで利用価値があるかなと思いました。発表者からすると手間ですが、使い方によってはアリなのかなと思います。ポスター発表時にセクハラがあつたという話があつたので、そういったものを撲滅していけるよう、委員会には厳肅な対応をお願いしたいと思います。生物系の小規模な学会での役割を引き受けていますが、男女共同参画やさまざまな配慮に関して遅れている面が多く、分子生物学会のような大規模学会での変革・改善に背中を押されて進められるような側面もあります。今後も、生物系学会でリーダーシップを取って頂けたらと勝手に期待しております。
※	学会として行動規範を設けるべきである。アカハラ・セクハラを訴える窓口を設置すること。男女共同参画参画学協会連合から脱退したのはなぜなのか、時代と逆行しているように思える。単にシンポジストに女性を入れるだけではダメ。学会の申し込み時に、学会が設置した行動規範に従うことを求め、それに従わないことが窓口などを介して確認できれば、処罰を設けるべきである。危機感を持って対応しないと、分生のイメージが悪くなると思う。
※	参加証は大きすぎて邪魔に感じました。その割に名前の文字は大きくなかったと思います。
※	Needs more English communication. Even this survey is 100% Japanese, which heavily marginalizes participation of non-Japanese society members, which I believe is discriminatory.
※	Overall, MBSJ annual meeting was good. But it was difficult to attend at the same time or same day English and Japanese presentation. However, if the presentation title and time will be included in MBSJ booklet, it will be easy to understand the research field which best matches with me for participation.
※	今回会場内ではないのですが、分生参加者との交流の場で、セクシャルハラスメントを受けました。具体的には、性的な画像を見せられたり、性的な発言や女性蔑視発言を受けました。他の学会ではそのようなことは過去一度もなかったのですが、大変怒り呆れるとともに、会員・参加者の行動規範の必要性を強く感じました。このようなセクシャルハラスメントは、学会員の心理的安全を脅かし、サイエンスを志す若者を遠ざけることになり、学会コミュニティの将来にとってマイナスの効果しかありません。また、分子生物学会というブランドにもマイナスイメージがつきます。次年度以降、ぜひ会員・参加者によるハラスメント防止対策を徹底していただきますようお願い申し上げます。このようなセクシャルハラスメントは、学会員の心理的安全を脅かし、サイエンスを志す若者を遠ざけることになり、学会コミュニティの将来にとってマイナスの効果しかありません。また、分子生物学会というブランドにもマイナスイメージがつきます。次年度以降、ぜひ会員・参加者によるハラスメント防止対策を徹底していただきますようお願い申し上げます。
※	国際会議場の上層階の会場のアクセスが悪く、また、案内表示が十分でなかった。5階の会場、第12会場と13会場にいくのにかなり迷いました。少なくとも案内をしっかりと出してほしかったです。ランチョンセミナーは、当日券があつたので、事前予約で落選したのにはいれたのはよかったです。これは、以前のようにすべて当日券に戻したほうがよいかわかりました。
※	高校生発表に関して、ポスター発表の1枚当たりの発表人数が一人以上いる場合が多かったため、非常に混雑しており来年度以降はポスター1枚当たりの面積を広げた方がよいように感じた。
※	昨年のような学会グッズ、マグカップを作って欲しい。

質問21. 前問までの設問・回答に関連するコメントや、その他年会全般についてのご意見があればお書きください。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	企業ブースがたくさんあったことがよかったです。普段使用する機器だけでなく他社製品も見て回ることができたので、最新機器について見るのができたのでよかったです。
※	名札は今回の半分ぐらいの大きさで、名前や所属の欄は今回と同じぐらい大きさで良いと思う。
※	・年会参加登録費が高すぎる。医学系の学会より高い。コストカットの意識が低いのではないかと感じる点が多々ある。ハイブリッド開催は止めた方がよい(メリットがコストに見合わない)。・多くの会場で人が廊下に大量に溢れていたことは反省すべきであろう。完全にキャバを読み違えている。神戸特有の問題ならば、今後神戸で行うことを見直してはどうか？
※	昨年の年会にも参加したが、昨年と比較して残念に思った点が、会場が3つに分かれており、特に展示場が会議場・ホテルと離れていて会場間の移動が面倒くさい点シンポジウムの会場で席数が十分でないところがあり、外で立ち見をすることがあった点サイエンスピッチとポスターセッションの前半の枠が被っている点Meet my Hero、テーマソングやサイエンスピッチ優秀賞の発表がある閉会式、会期中ずっと試飲が可能な日本酒等の販売がなく、全体的にお祭り感が薄かった点などが挙げられる。1つめと2つめに関しては、幕張メッセのような巨大な会場を使える都市で開催するようにしてもらいたいと思った。
※	色々な話題があり楽しかったです。また、参加したいと思います。
※	もっと様々に広いテーマを取り上げてほしい。テーマが偏りすぎているように思った。
※	ポスター発表で、失礼な態度をとる教員や、発表時間枠を超えても執拗に研究内容の説明を求める外国人学生への対応に苦労した。そのような方が出ないような工夫がほしい。ただ、総合的に見て本学会は大変よかったです。
※	開催言語の設定が中等半端だと思いました。海外の話者をもっと招聘して国際交流を深めたいのなら英語で、その目的がないなら完全に日本語で行えば良いかと思います(セッションごとに変わるかとは思いますが・・・)。ポスター会場で海外からの参加者が孤立気味になっているのを見かけて少し寂しくなりました。会期のボリュームに対して開催期間が3日は十分ではないと感じます。
※	子どもを帯同しないといけない研究者への旅費補助があるといいと思いました。研究費から帯同のための交通費や宿泊費が出せません。助成金の形でお支払いでもよいですし、会場のホテルを借り上げて安価に泊まれるようにするなど、何かできないかなと思いました。
※	会場がどこも全体的に暑かった。
※	冊子は一切不要毎年生化学会と合同大会でよいのではないか。
※	「雑談」というテーマ、ポスター会場で酒が出ているなど弛緩した空気、参加者の質よりも量を重視する姿勢、等がアカデミアの先端を競う場としての学会の価値を棄損し、「忘年会」などいわれる状況を久しく招いている。学会の原点に立ちかえり、先端の尖った発表を競うアカデミアの祭典を取り戻さなくてはならないと思う。
※	オンサイト講演と、オンサイトかつオンライン講演を、両立させることを希望します。
※	神戸会場は移動が大変すぎる上、一つ一つの部屋が小さすぎたので分生には向かないと思う。遠方から来る人向けに旅費支援をするなどした上で、福岡会場や横浜会場など移動が少なく済む会場のみでの実施に限るべき。
※	演題数が多いのでデジタルプログラムでキーワード検索ができるのは有り難いが、そうすると意外な出会いをする機会が少なくなる。ざっくり演題タイトルを眺めていくだけでもときどき「おっ」と思うものに引っかかることがあるので、タイトルのみ記載の小冊子を作る意味はあるのではないかと思います。大きなネームプレートにしたのに所属先は大学名が小さく記載してあるのみで視認性が悪く邪魔なだけだった。シールのアイデアは面白いと感じたが、職位や専門分野はステレオタイプな偏りがあり使おうという気は起こらなかった。これは演題登録の際の分野選択についても言えることで、益々複雑化・複合化している生物学研究者の興味や対象をカバーしているとはとても言えず、早急に刷新すべきと感じます。
※	サイエンスピッチのブースが隣と近い、あるいはポスター会場と近く、周りの騒音が常に聞こえる状態であったため、発表する側としても聴講する側としてもやりづらさを感じた。
※	参加者が減ってきたとおもうので、収容人数の制約が少なくなってきたと思います。開催地を新しく考慮するのがよいと思います。
※	発表会場が会議場と展示場に分かれており、移動時間の関係上、聴講できないセッションがあった。可能であれば、オールセッションはどちらかに統一してほしい。
※	参加章に分野のシールを貼るのは理解できるが、身分のシールがあるのにはある種の違和感を感じた。ただ個人的には多くの参加者が身分のシールを貼らない中でどのような人物が教授のシールを貼っているのかを見るのは面白かった。
※	EMBOとの連携プログラム(MBSJ-EMBO合同企画ランチオンセミナー「あなたの論文はどこへ行く」の趣旨がよくわからなかった。せっかくの機会なので日本語でやってほしかった。Springerの方がなぜ参加されているのかよくわからなかった。
※	関連する分野の内容のシンポジウムが同時時間帯に行われてしまうことがあった。出来れば、回避してほしい。ショートトークが、よくわからなかった。アブストラクトは、ちょっと準備をするのが大変でした。海外招聘の旅費をもう少し増やしてほしい。
※	今年は、昨年よりも、要旨の閲覧などがしにくかったです。周りの友人たちも、検索機能がつかにくいと言っていましたし、私もそう思います。
※	学会大会の運営、お疲れ様でした。色々な分野の研究者がいるため、まとめるのも大変だと思います。毎年の学会大会も、画一的である必要はないと思っています。運営者たちが今以上に独自性を発揮して、もっと自由な形式で大会を企画運営できるようになったら、さらに魅力的で面白い学会になると思います。宜しくお願いします。
※	とても充実した年会で得るものも多々ありました。ありがとうございました。一つだけ、職位をネームプレート(参加章)に表記させるのはおかしいです。協賛企業等からのリクエストかもしれませんが今まで見たことも聞いたこともありません。アカデミックな集いの平等性を凌駕する明らかな階級差別です。今後はやめてもらいたい。
※	分生は広い分野の研究者が集まるため、専門外の研究にも触れられることをメリットに感じていたが、規模が大きき目的の場所から動けなくなると結局広い情報というのは入手しづらいと感じた。規模が大ききことがデメリットになっては良くないと思う。規模が大ききことで学会前に十分な準備(聞く演題の選択や会場の移動タイミングなどの計画)をしておかないと聞きたいものも聞けなくなる。サイエンスピッチや企業のバイテクショールはオンライン(会場のみ)で聞けるようにした方が良かったのではないかと感じた。(ポスター会場が広く移動が困難で聞けなかったから。神戸開催特有の問題かもしれないが。。)

質問21. 前問までの設問・回答に関連するコメントや、その他年会全般についてのご意見があればお書きください。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	参加費が高すぎるのに、ドリンクなどが全部有料でびっくり、会場が分裂しすぎていて、移動が大変だった。
※	学部学生です。学会への参加は初めてのことでしたので慣れない体験でしたが非常に楽しく実りある時間を過ごすことができました。キッチンカーやミスタードーナツの販売があり、昼食に困らなかったのが良かったです。シンポジウムは会場が満席でも中継を通して聴講できたことがとても良かったです。学び多き時間を誠にありがとうございました。
※	コロナ禍の先行きを予想しながらの企画でご苦労が多かったことと思います。口頭発表・ポスター発表ともに活気があり、対面開催の良さをあらためて感じることができました。ありがとうございました。演題数が多いため、検索しやすいオンラインプログラム・アプリは必須です。この点は改善を強く希望します。
※	ポスター展示会場にミスタードーナツが入っていたのはよかったです。頭が疲れているときに甘いもので糖分を補給するのは良いと思った。
※	部屋に入りきれず聴衆が溢れかえっている会場があった。ポスター会場が複数に分かれており、移動が面倒である。
※	神戸だと安心する。
※	電源が講演者用しかなかったので、パソコン、スマホの電気が無くなりそうになって不便でした。特に私のパソコンは2時間しか持たないので、発表の準備やポスター発表の際の補助資料として使おうとしたのですが、制限を受けました。ランチョンセミナーの整理券は会場で時間が来れば締め切ってしまうので意味が無いと感じました。
※	Q19-1では地方都市もオンサイト開場の選択肢に入れるのが良いとある。オンサイトの規模が小さくなるのであれば支持できない。他に選択肢がない点でこの設問は誘導的であるといえ正しくないように思う。参加証にポジションを記入しては？という提案について気持ち悪く思う。提案することそのものも時流に外れていると思う。理由は1. 議論にはポジションは関係ない、2. 性や年齢、国籍、宗教などに執着せずフラットにしていくというのが時流だろう。憧れの研究者がどうの導入文にも記載があるが、これらは科学する心とは別物。ポジションが書かれていることで何が促進されるのか。上から目線、権威主義に感じる。敬われたいという気持ちの表れか。科学ではなく政治をしようという気持ちの表れか。
※	後期-当日参加登録費(正会員、非会員)がとても高いと感じた。
※	ポスター会場の画紙入れに企業からの広告がありました。就活サイトの広告で「早期から就職活動に注力する事を促す」内容の広告がありました。分子生物学会の方針としてはむしろ、過剰な就職活動から学生を守るべきではないかと思えます。出展物や広告の内容について精査されていないのでしょうか？
※	まずはじめに、組織運営委員の皆様には尽力に心より感謝申し上げます。重たいプログラム冊子が無いことはとても有難いが、ネット環境が悪い場合は検索方法がなくて怖いと思う(前回大会はそれで悲惨だった)。参加費が2万円と高額で驚いた。日本語の講演が多かったのも、他分野の話も理解しやすくてとても良かった(母国語での発表はちゃんぽん学会では重要なことだと思う)。
※	日本の学会なので、日本語でやって欲しい。英語のをやりたいなら別枠組みで国際学会をやれば良い。
※	最先端の研究を日本語で聞けることがとてもありがたいことだと感じました。多くの人と関われるいい機会になり、感謝します。
※	オンラインポスター発表は今後も絶対にやめたほうがいい参加費用が高すぎる、高騰するくらいならオンラインは不要
※	全体的に評価しているが、参加証の肩書についてはその必要性を感じなかった。明らかに肩書を見て何かを判断している方が一定数いると感じるし、特に企業ブースではそれが顕著だと感じた。ポスト探しています、とか意味のある情報と異なり、肩書自体が学会における発表やディスカッションに何ら影響を及ぼさないのであれば、むしろつけないほうが、学生や若手研究者が自由に議論できるようになるのではないかと感じた。
※	サイエンスピッチ受賞者の発表が遅い(去年は閉会式で発表されていた)。発表者側も、審査員側も結果が気になっていると思う。また、一部の演題で、サイエンスピッチの登壇会場と、その演題のポスター掲示会場が異なっているのは、混乱を招くので解消してほしい。ミスが出ているのはすごくよかった。
※	今回の参加章についてモデル生物として酵母が含まれなかったことが残念であった。
※	・各講演場所が近い会場で開催して欲しい。各会場が離れていたため、セッションの間に梯子して聞きに行くことが難しかった。・ネームプレートにの職位にシールは不要。サイエンスは職位に関係なく、研究者同士として接する場であるべき。上下関係/意識のつよい日本で、職位を気にしたり・先入観をもって接することを助長する試みであった。あえて職位シールをつくるなら、学生会員かそれ以外かだけでよい。・年会特別企画や学会企画でも登壇者の男女・年代のバランスを考慮して欲しい。EMBOとの連携プログラムでは登壇者が全員男、司会者がマスコットの女性という形式で違和感があった。また、他の企画でも登壇者にシニア層が多く、世代交代をした方がいいように感じた。・スーツを廃止してラフな格好で参加する学会というのを一度試しに打ち出してみようか?・ポスター会場に、番号だけではなく分類「1. 植物」などのように貼って欲しい。ポスター会場を歩きまわる時に、携帯でプログラムを見る手間が省けてよい。
※	ポスター会場の前でカレーやサンドイッチが売られていたが、あれは外で座って食べるのが正解だったのでしょうか。どこか屋内で座って食べられる場所の案内があるとよかったです。
※	アメリカ細胞生物学会(ASCB)と開催日程が重なる場合があるので、出来るだけずらして頂きたいです。
※	Poster Clinic by EMBO Pressについてお忙しい中、先生方にポスターをみていただける機会は貴重でありがたく、企画としては素晴らしいと思います。ただ、実際参加してみて、5分で成果を説明し、5分質疑応答という事前に案内されていたタイムスケジュールが全く守られていなかったことが気になりました。成果の説明だけで10分近く話している発表者も多く、質疑応答も時間を無視して行われていたので、トータルで15分を超える場合がほとんどで、20分を超えていた人もいました。せめて15分で切り上げることにして、発表者が長く話すぎた場合は質疑応答が短くなるなどにしてはどうでしょうか?5分で説明できるように準備をしていた人や、発表順が後半の人が気の毒に思いました。
※	参加証のシールはあまり色などがはっきりしておらず、結局名前と所属くらいしか目に留まらなかった。求職中や人材募集中など、研究内容とは関係ないようなことを示す方がよいかと思った(ポスターなどで研究内容は説明するため)。シンポジウムの略称は、プログラムでみた正式名と大きく異なると、判別できなかった。
※	とりあえず、ポスター会場もシンポジウム会場も狭く感じた。もっとゆとりのある会場であればなお良かった。

質問21. 前問までの設問・回答に関連するコメントや、その他年会全般についてのご意見があればお書きください。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者 番号	意見記述
※	<p>年会企画。(1)座長が冒頭から「準備不十分で出たとこ勝負」と受け取られるような発言をしてどうするの？シンポジウムやワークショップの口頭発表の冒頭で、発表者がそんなことを言ったらどうなりますか？(2)委員各自の成功体験を口にするだけでなく、その経験をもとに成功の事例を増やすにはどのような条件が満たされなければならないか、学会や会員の行動で実現できることがあるのか、最後に簡単にでもまとめて頂けませんか。(3)委員の所属が偏ってませんか。大学で学部教育も担当し、諸々の雑用を片付けてくれる補佐員を十分数雇用する余裕がない教員の比率は高いはずで、その状況を踏まえた発言ができる委員を迎えてください。会報の対談では、地方大学で、学部教育にもエフォートを割きながら、家庭を持ちつつしっかりと研究されている会員のお話に感じ入りました。その会員の時間を割かせるのは心苦しいけれど、若手(特に院生)の発表者を増やし、年会のみならず研究分野を盛り上げていくためにも、一人一演題の原則は死守すべきです。第46回日本分子生物学会年会 組織委員会の皆様、学会事務局の皆様、本当にご苦勞様でした。</p>
※	<p>キャリアパス委員会主催ランチタイムセミナー2023、Part1&amp;Part2に参加しました。現場のざっばらんなお話を聞くことができ、問題意識の共有とそれを一緒に乗り越えていこうという一体感を感じることができました。キャリアパス委員長が男性ワンオペ育児をされていた経験があるというのは強いメッセージとして受け取りました。個人的な事情もおありかと思うので難しいかもしれませんが、もっと詳しいお話が聞きたいです。実は、男性でワンオペ育児している人も一定数いるはずで、勇気付けられると思います。また、ワンオペではなく、男性・女性でうまく家事・育児を半々に分担しているケースなどもぜひ聞いてみたいです。別件で、パネリストのダイバーシティがもっとあると良いかと思いました。日本でPIをしている外国人や、外国でPIをしている(していた)日本人が、キャリアをどう考えるか、興味があります。</p>
※	<p>発表賞がサイエンスピッチだけでなく口頭発表などにも設けられていると良いと思った。前述したが、サイエンスピッチとポスターの時間を被せない方が良い。発表賞があるのなら、閉会式等を行って会場で結果が発表されると良いと思った(幕張の時のように)。</p>
※	<p>職場を休めないため現地へ行くことができません。今回のようにオンデマンド配信をしていただけると空き時間を利用して聴講できるので助かります。</p>
※	<p>本会は基礎系最大学会としての存在意義があり、運営に携わる方々へは感謝する。一方で、分子生物学自体が学問分野として変革する時代に、繰り返し同じ理事メンバー＋その門下生による永続的運営は、会員目線から離れていくことを危惧する。会員数減少はどの学会も直面するが、学会の質的向上による魅力以外に会員としてのメリットは無い。毎年拡大といつか拡散する感のある祭り年会の改革、初心に還り学会誌を充実させる改革など、「会費の使途」についてのマンネリを廃する自覚と仕組みがあるべき。</p>